

宗教優劣論

原 坦山禪師題字
大內青巒居士序
微笑居士今井藤五郎著

東京書肆

森江藏版

2024/124

破

破

破
破
破
破
破
破
破
破
破
破

破
破
破
破
破
破
破
破
破
破

頭

正

古今東西の思想

四

科



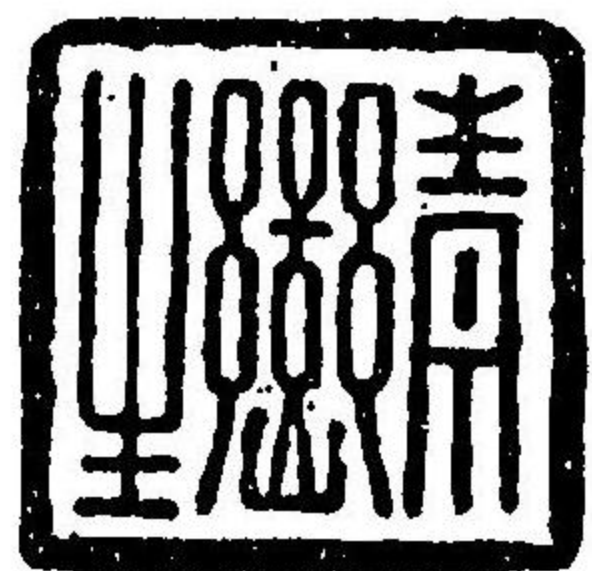
微笑居士。諸宗教を比較して。佛
法に至る真あり。言ふ。予信せし
何をも也。至真は絶対あり。比較を
する。幾個の宗教をたゞと比較し
て。謂ふ。其の至真あり。と云ふ。

るに足る。佛と説き法と説く。元来
許多の妄想。況や彼の造物の痴
談迷話と相比較する底。何の至
真の之れ有らん。至真畢竟作麼
生。請ふ。試みに佛法を放下去来
を。始めて俱に至真を語らん。時に

背後に人あり。予が肩を打て白
く。此老賊。汝先つ至真を放下去
去を。予覚えに呵々大笑也。

明治辛卯三月中院ふれを書
きたり。以て宗教優劣論の序辭に
代ふ

高橋の白鳥



宗教優劣論

緒言

世人或ハ謂ヘラク佛學ハ至難ナリト左レバ稗史小説
ヲ愛讀スルモ佛書ヲ繙カズ政治ニハ熱心ナルモ未ダ
佛教ノ研究ヲ好マザルモノ多シ余ハ之ヲ咎メズ唯其
ノ入り易キノ書ナキヲ憂フルノミ余ヤ不肖ナリト雖
モ佛教ノ研究ニ意ヲ注グテ既ニ數年而シテ未ダ其奧
義ヲ探リ得ズ恰モ渴者ノ水ヲ索ムル如ク教理ノ奧義
ヲ探ルモノナリ然リ而シテ其眞理ナルモノハ之ヲ遠
望スレバ眼前ニ現ハル、モ接近シテ之ヲ捕ヘント欲
セバ得ベカラザルモノナリ惟フニ往々世ノ學者ガ或
ハ妄想ノ深林ニ彷徨シ或ハ架空ノ樓閣ヲ畫キ木ニ縁
テ魚ヲ求ムルノ觀ヲ呈スルハ蓋シ之ヲ捕ヘント欲ス

緒

言

ルニ由リシナラン是レ世人ヲシテ此學ハ玄妙不可思議ナルモノナリトノ思想ヲ抱カシメタル所以ナル乎弘教ノ奧義ハ人智ノ到達スベカラザル所ニ隱蔽スルモノニ非ズ我等ハ日常眼前ノ事實ニ於テ佛教ノ現ハル、ヲ見ルベシ夫ノ詩歌ニ風俗ニ政治ニ商賣ニ佛教ノ現ハル、ト多シ何ソ殊更ラニ難澁信僞ノ科語ヲ用ヒ奧行敷ク論ズルノ必要アラシク今ヤ宗教ノ論世人ノ注意ヲ促シ之ヲ知ランガ爲メ入り易キ書ヲ求ムル人多シ余不肖ヲ願ミズ平易ノ語ヲ用ヒ以テ需用ノ幾分ヲ満足セシメント欲ス是レ本書ヲ著述スル所以ナリ

明治廿四年七月

著者 識

宗教優劣論目次

一總論……………一頁

一宗教之紀原……………五頁

一耶蘇出世之理由……………十四頁

一釋迦出世之理由……………廿三頁

一基督教之弘布……………卅一頁

一佛教之弘布……………卅七頁

一佛教到來前之宗教……………四十四頁

一基督教……………四十八頁

一佛敎……………五十九頁

一信行綱領……………七十二頁

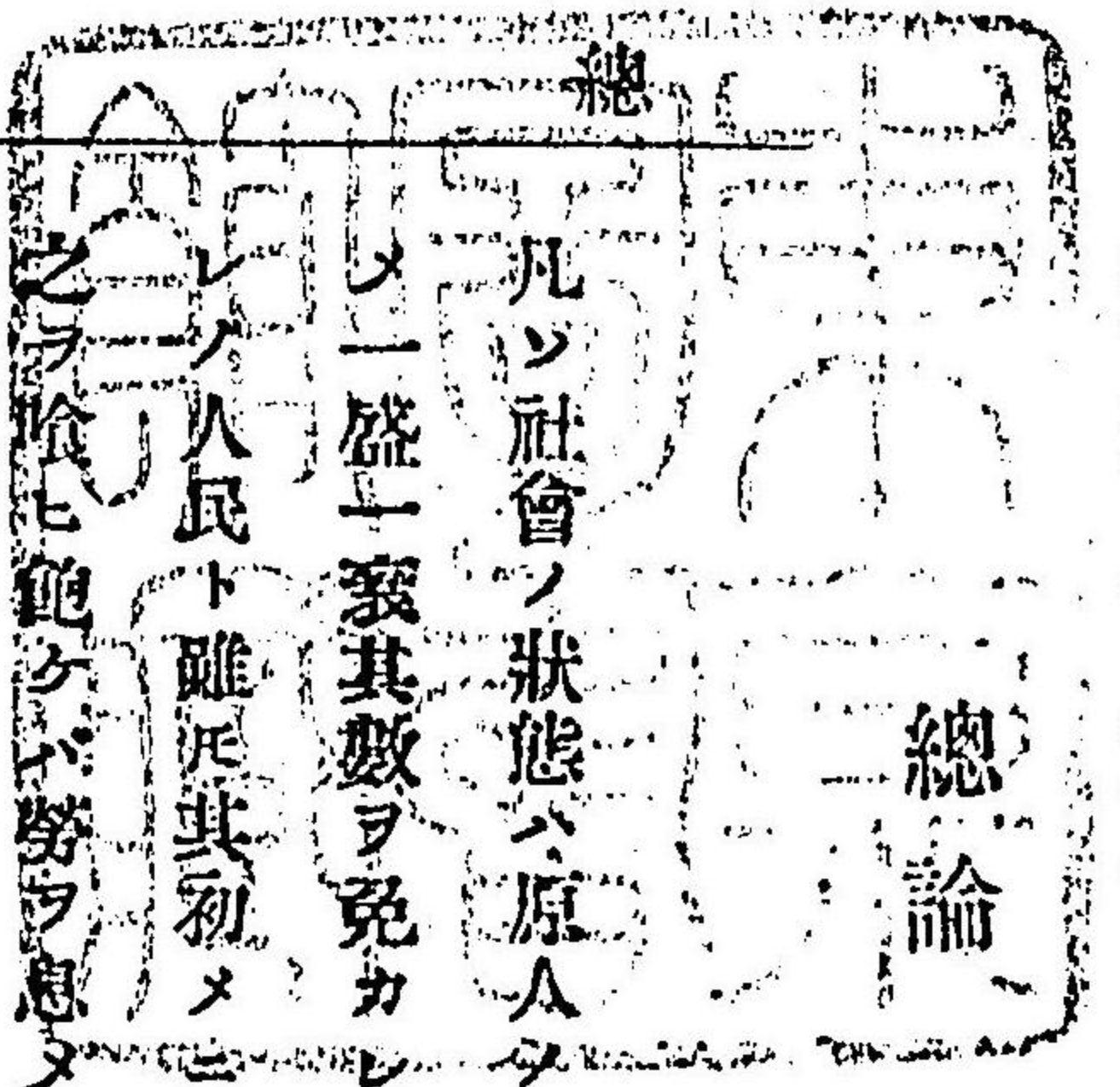
一佛耶兩教之優劣……………七十七頁

一結論……………八十八頁

目次終

宗教優劣論

微笑居士 今井藤五郎著



論

凡ソ社會ノ狀態ハ原人々大古ヨリ今日ニ及ブマデ時ニ或ハ汚ヲ流シ時ニ或ハ隆ヲ極
 メ一盛一衰其數ヲ免カレズト雖ヒ要スルニ漸々進化シテ毫モ其歩ヲ止メザルナリ何
 レノ人民ト雖ヒ其初メニ當テヤ必ズ三々五々相集リ或ハ漁獵ヲ事トシ飢ヘハ捕ヘテ
 之ヲ喰ヒ飽ケハ勞ヲ息メテ眠ルノミ智慮ナク分別ナシ或ハ木實ヲ貪ボリ一定ノ居所
 ヲ有セズ水草ヲ追フテ轉移セルノミ此時ニ當テヤ豈ニ國家的ナドノ觀念アラシヤ唯
 ダ食ヲ求メテ各々東西ニ移流セルヲ事トセリ既ニシテ人口次第ニ繁殖シ單ニ天產物
 ノミヲ以テ需用ヲ滿タス能ハズ風雨寒冷ノ爲メニ漁獵獲ル能ハザルコトアリ其他暑ニ
 就キ寒ニ就キ種々雜多ノ不便利ヲ感ズルヤコレガ完全ノ生活ヲ計リ工風ヲ凝ラシ或
 ハ土窟ヨリ進ンデ木ヲ構ヒ雨ヲ凌グニ覆フ物ヲ以テシ風ヲ避グルニ苞ムモノヲ以テ

總

シ漸々巧ヲ積ンテ始メテ家室ヲ構造スルニ至レリ爾後今日ノ如キニ至ル蓋シ幾多ノ
 星霜ヲ經シヤ知ルベカラズ此ノ如ク人智愈々進ムニ從テ土地ヲ耕シ有無ヲ通シ各々
 一家ヲ組成シ以テ村落市邑ヲ成シ遂ニ一國ヲ形成スルニ至レリ然リ而シテ各地ニ移
 住セル人民氣候食物土地外境一般ノ景況等ニ由テ言語風俗ヲ別ニシ人種黑白ノ區別
 ナ生ズルニ至レリ今ヤ圭運大ニ其歩ヲ進メ學科亦々各々専門ノ研究スル所トナリ史
 學ハ人民ノ發達進歩ヲ研究シ地理學ハ地球上ニ現出セル萬般ノ現象ヲ講究シ經濟學
 ハ分業論ヨリ大ニ社會進行ノ論ヲ佐ケ其他世般ノ學問皆ナ理ヲ究メ論ヲ立ツトシ
 テ人類ニ益ヲ與ヘザルナク文物ノ盛ナル實ニ驚クベキナリ是ニ於テカ各其學ノ研究
 スベキ範圍ヲ一定セリ余ハ此一小冊子ニ於テ安ンツ此等ノ事ヲ論述スルヲ得ン否此
 等ハ皆之ヲ専門家ニ一任シテ可ナリ敢テ複雜繁重ノ縷述ヲ要セザルナリ余モ亦タ一
 範圍ヲ定メ立論セザル可カラズソモ余ガ範圍トスル所ハ何ゾ國家的宗教ヨリシテ佛
 教ノ信仰セザル可カラザルヲ是レナリ

人アリ問フテ曰ク佛教ノ成立ハ學問的信仰的二者孰レニ屬スルヤト世或ハ同疑ヲ懷

論

總

ク人多カラシムルモ佛教ノ成立タル信仰心ヲシテ堅固ナラシムル爲メノ學理學理ヲシ
 テ緻密ナラシムル爲メノ信仰ニシテ彼レニ偏シ此レニ頗セザル中道不二完全無闕ニ
 ル教法ナリ學問的ノ目的トスル所僅少知ノ位識ニ拘泥シ研究ノ段ニ至テ乃チ止ム此
 ノ如クンハ世間尋常ノ教育ニシテ事足レリ矣豈ニ何ゾ佛教ノ必要ヲ喋々センヤコノ
 學理ヲシテ輝カシ且ツ働カシムルモノ是レ即チ信仰心ナリ果シテ然ラバ信仰的ハ行
 ノ位ニシテ知識ノ上ニ席ヲ占ムル數歩實際的實利主義ト云フモ何ノ不可カコレ有ラ
 ン是レニ由リテ之ヲ觀レバ人トシテ此實利主義且實際的タル真正ノ信仰心ナクンハ
 一身ニ取リテハ卑劣ニ陥リ怯弱ニ迫リ懶惰ニ流レ一家ニ在テハ不和ヲ生シ不幸ヲ來
 シ進ンデハ一國ノ元氣ヲ失シ遂ニハ破廉耻且不德義窮リタル禽獸社會ハマダ愚カ實
 ニ言語同斷奇々怪々百鬼夜行モ當ナラザル醜態ヲ現ハスニ至ル日本臣民タルモノ豈
 ニ注意謹慎セズシテ可ナランヤ

余熟ラノ世ヲ觀察スルニコノ貴重ナル信仰心ヲ有スル人能ク幾何ゾヤ十萬ノ僧
 侶中護法ノ爲メカヲ盡ス人沙中ノ金曉天ノ星モ當ナラザルナリ噫悲ヒ哉或ハコノ言

論

ヲ以テ過ナリトシ怒々怒々攻撃ヲ試ミントスル者アラン余ハ却テ此等ノ人ニ反問セ
 ントス佛教成立ノ信仰的ニシテ口ニ筆ニ喧々喋々センヨリハ寧ロ實行ヨリコレガ主
 意ナリト判然セバ何故ニ社會ニ先キ立チ早ク社會全体ノ實況ニ眼光ヲ注ギ改良ノ道
 ヲ計ラザル何故ニ僧侶自カラ進ンテ德義ノ標準タラザルヤ何故ニ護法愛理ノ先導者
 タラザルヤ何故ニ邪教日々ニ蔓延シ夜々我法田ヲ蹂躪スルヲ見テ敢テ傍觀坐視スル
 ヤ是レ畢竟真正ナル信仰心ナキノ致ス所ナラン此ノ次第ニシテ佛教ヲ信ズト云ヒ或
 ハ之ヲ擴張スト云フヲ得ベキヤ愚モ此ニ至テ覺エズ涙漣然タリ噫憂フベキノ極ナラ
 ズヤ今日ノ佛信者ト稱スルモノ其名ノミニシテ其實佛ヲ使テ山車トスルモノナリ白
 面的風流主義ニ走テ佛教ノ眞面目ハ殆ンド其跡ヲ隠シ全体ノ活用ヲ失セリト謂フ可
 シ此ノ如クンハ法ノ爲メ社會ノ爲メ何ノ益スル所カアル速カニ斷然其根ヲ鋤除スル
 ニ若カジ否例ヘ之ヲ手ヅカラセザルモ會社進化ノ理優勝劣敗ノ眞風ニ吹キ倒サレ彼
 レ遠カラズシテ自滅スルコト云ハズシテ明カナリ
 ソレ社會ハ眞理ノ一大競争場ナリコノ故ニ眞理ニ順スル者ハ自ラ助ケ他ヲ救ヒ社會

總

論

宗 教 之 紀 原

ノ模範トナリコレガ公道ニ逆スル者ハ自ヲ損シ他ヲ害シ社會ニ奴隸視セラル、是レ
 必然ノ理當然ノ事ニシテ毫モ怪シムベキ所ナシ余不肖ナガラ佛教ノ基礎タル眞箇ノ
 信仰的ヲ叩出シだまし主義風流的等ノ惡弊ヲ一洗シ一大佛教ノ眞理ヲシテ社會ニ活
 用シ佛教全体ノ眞面目ヲシテ天下ニ輝カシ彼ノ基督教ノ如キ之ヲ佛教ニ比セバ月
 モ管ナラザル所以到底國家的宗教トナスニ足ラザル理由ヲ論ジ總テ宗教ノ起原佛耶
 傳來ノ最大畧及ビ其優劣等數章ヲ叙ヅリ佛教ニ入ルノ一助トナサントス然リト雖モ
 コノ一小冊子ヲ以テ佛教ヲ知り得タルトスル勿レ若シ罪アラバ不肖ニ歸セヨ佛教ノ
 濶大ナル之ヲ經ニ徵スルモ六千七百卷ノ多キアリ豈ニコノ一小冊子ノ能ク簡ブヲ得
 シヤ乞フ讀者其微意ノアル所ヲ察シ勉メテ私意ヲ狹マズ協心同力眞理ノアル所ヲ講
 究シ互ニ護法愛國ノ臣民トナリ眞理ノ敵國家ノ罪人トナル勿レ

宗 教 之 起 原

凡ソ洋ノ東西ニ論ナク三々五々ノ人集漸々一村一市邑ヲ成スヤ人智從テ外物ニ就
 キ種々ノ觀念ヲ生ジコレガ思想ヲ增加スト雖モ到底一々物理ヲ考フルコト克ハズ理會

力甚々薄弱ニシテ山川草木日月禽獸地震雷電風雨疾病等森羅万象ニ對シ天然ノ現象偉大ニシテ耳目ヲ驚カシムルモノアル時ハ徒ラニ驚恐ノ念ヲ生ジ慄然タルノミ又々精神ヲ凝シ熟考スルノ氣力ナク只々茫然タルバカリナリコレニ反シ外國ノ事物快意美觀ヲ呈シコレガ耳目ヲ樂マシムルモノアル時ハ忽チ尊敬ノ念ヲ生ジ甚々奇異ノ思ヒヲナシ只々其妙ニ驚クノミコノ念コノ尊敬ノ念是レ宗教發生ノ基本ニシテ文物開ケ人智進ムニ從テ愈々天地間ノ現象ヲ得知シ安身立命ノ地ニ至ラントスル蓋シ勢ノ然ラシムル所必ラズ然カル可キノ道理ナリ然リ而シテ孰レノ宗教ト雖モ必ラズ自然顯示ノ兩者ヲ具ス自然トハ上陳ノ如ク人々誰レノ教示ヲモ待タズシテ自然ニ畏懼ノ念尊敬ノ念ヨリ進ンデコレガ道理ヲ知ラントスルヲ云フモノニシテ顯示トハ他人民ヨリ拔群俊才高見博識ノ者アリテ諸人ノ解セザル所ヲ辨明シ疑ヲ解キ迷ヲ散シ教訓ヲ垂レ以テ安心セシムルヲ云フ換言セバ教者受教者ノ二者アルヲ云フ而シテ各宗教大ニ其性ヲ異ニセリ今一々コレガ論解ヲ與ヘ陳列詳言スルハ却テ繁ニ過グルノ患アルヲ以テ余ハ須臾ヲク歴史的地理的ヨリ東洋ニ於テノ印度歐洲ニ於テノ希臘右兩國

宗教ノ異同ヲ概論シ以テ本論ノ責任ヲ免レントス蓋シ兩國宗教ノ有様ヲ熟知セバ他ハコレヲ風土氣候ニ徴シ推シテ知ルヲ得可ケレバナリ

印度北ハヒマラヤ山列ニ至リ南ハ印度洋ニ臨ミ其面積百五十七万方哩(太古幾何ナル區域ナリシヤ今マ委シク計)ヲ有セル一大半島ニシテ氣候極熱雨量ノ多キ世界其ノ比ヲ見ズガンダス及ヒアラマブトラノ地方タル氣候地味共ニ天産ニ適スル利アリト雖モ其酷熱ナル道路山岳ノ嶮阻壯觀ナル自ラ猛獸毒蛇ノ繁殖ヲ補ケオ自^オ然人ヲシテ心裏ニ不思議ノ念ヲ興シ無力無能畏懼柔弱只ダスラ妄想力ニ富マシメ土人ノ元氣ヲ侵奪セリ初メ印度人がイランノ山國ヲ出デアフガニスタンノ溪谷ヲ經テ此ノ地ニ侵入シ來タルヤ強力勇猛ニシテ事ヲ好ムノ人民ナリシハ疑ナシコレ其太古傳來ノ マハハラタ Mahabharata ト稱スル歌例或ハ韋陀ヲ讀ムモ能ク推知スルヲ得ルナリ然レモ印度ノ風土氣候ハ幾多世記ノ久シキヲ經ルニ從テ彼等ノ新銳活氣ヲ失去セシメタリ此ノ如ク外物皆ナ人心ヲ屈弱シ軌迷ヲ興サシメ事々物々之ヲ恐レザルナク遂ニ猛獸毒蛇ヲ神トシ小蟲モ之ヲ敬シ甚ダシキニ至テハ人身ヲ犧牲ニ供シテ之ヲ祭ルニ至ル斯ク印度ノ宗教ハ恐懼ヲ主トシテ起

リシモノナルヲ以テ彼等一般ノ尊奉セル^{ニシ}ト云フ神ヲ見テモ之ヲ證スルニ足ルコ
ノ神ハ全身群蛇ニ圍繞セラレ觸樓ヲ手ニシ領ニ人骨ヲ連テテ作りタル領卷ヲ着シ体
ヲ被フニ虎皮ヲ以テシ左肩ノ上ニ大蛇ノ頭ヲ出スアリ其歩行スルヤ狂夫ノ如ク恐ロ
シト云フ其他彼等ガ崇奉スル諸神大同小異人類ニ遠カル莫大ナリ蓋シ此等皆外物ノ
人心ヲ刺激シ妄想ヲ畫カシムルノ致ス所ニシテ毫モ怪シムニ足ラザルナリ以上ノ情
況豈ニ獨リ印度ノミナランヤ世界各地外物圍繞ノ差ノ大小ニ從ツテ妄想ニ大小ノ差
ヲ生ジコレガ宗教ニ深淺ノ度ヲ生ズル知ルベキナリ

希臘ハ歐洲ノ南部地中海ニ臨メル半島ニシテ三面海ニ濱シ面積二万五千方哩ヲ有シ
港灣出入スルヲ以テ舟楫ノ便少ナカラズ氣候温暖ニシテ頗ル健康ニ適シ國中山岳起
伏シ數多ノ小邦分立スト雖モ山川風景自ラ印度ト其趣キヲ異ニシテ外物皆小佳愛ス
ベク敬スベク欣ブベク慕フベク勢力甚ダ小弱ニシテ人民ノ智識ヲ傷害スル^トナキヲ
以テ畏懼忘想ノ念ヲ生ゼズ進取研究ノ氣象漸々發達シ新銳活氣潯然トシテ其勢ヲ増
セリ從テ彼等心裏ヨリ形成スル所ノ宗教モ印度ノ如ク畏懼ヲ主トセズ親愛ヲ主トシ

其崇奉スル所ノ神ハ人類ニ近ク性質形狀共ニ細小精巧ヲ示シ人之ヲ觀レバ自得シテ
敬愛ノ念ヲ興スニ至ルコレ印度希臘兩國ノ宗教其性ヲ異ニシ發達スル所以ニシテ毫
モ怪シムニ足ラザルナリ以上ノ情況豈ニ獨リ希臘ノミナランヤ世界各地外物圍繞ノ
異ニ從ツテ智力ニ深淺ヲ生ジ宗教ニ及ボス影響ノ狀知ルベキナリ余ノ印希二國宗教
發生ノ大畧ヲ叙ヅリシハ世界宗教中最モ正反對ノ起原ヲ有セル者ヲ擧ゲシナリ而シ
テ他ハ推知スルヲ得ベシト云ヒシハ其理此ニ在リ乞フ讀者各國宗教ノ有様一々之ヲ
明知セント欲セバ宜シク各國ノ風土氣候外物百般ノ狀況ヲ觀察シ史地學等ノ範圍ニ
於テ之ヲ研究シ推斷熟知探尋ニ汲々タランコトヲ

宗教ハ其始メ恐懼尊敬ノ念ニ起原スト雖モ太古何レノ國ヲ問ハズ宗教テフ名目アリ
シニハアラザルベシ否ナ未ダ宗教ト云フヲ得ザルナリ彼等自然ヲ備ヘタルモ顯示ヲ
與フルモノナク人智ニ高低ナク同一思想ヲ有シ唯ダ蠢々タルノミ星移リ物換リ人民
世界ニ繁殖シ世事複雜ヲ極ムルニ至リ東西文字其形ヲ異ニスト雖モ之ヲ造作シ南北
智識其度ヲ同フセズト雖モ愈々開發シ種々ノ必要ヲ感ジコレガ刺激ノ力ニ由リ或ハ

政治ニ法律ニ文學ニ宗教ニ百般皆理ヲ究メ當ヲ得ンコトヲ是レ勉ム文字モ其今日ノ如キニ至ルマデ長年月ノ間幾多ノ變化ヲ經シヤ詳知スベカラズ然ルヲ況ンヤ政体宗教ノ變遷コレガ今日ノ形狀ヲ成スニ蓋シ幾千ノ年月ヲ費ヤセシヤ豈ニソレ計ルベケンヤ

凡ソ此人類ノ進化ハ太古ニ溯テ之ヲ探究セバ猿猩ノ如キヨリ今日人間ニ及ブマデ其間幾萬年ヲ經シヤ知ルベカラズト雖レ世界固定ノ初メヨリ人間世期ニ至ルマデ十八萬年ヲ經シト云フ如何ニシテ之ヲ調出セシカコレ地質學者ノ地層歴史研究ノ好果ナリ今其一例ヲ舉ゲンニ北米ミシガン洲ニナイヤガラト稱スル大滝アリ毎年其崖ヲ崩隨シテ入り込ム一寸ツヽナリ其跡ヲ計算シテ年數ヲ考フルヲ得ベシ又タ御影石ヲ以テ地層ノ最モ古キモノナリトシコレニ由テ今日人間生活時期ノ地層ニ至ル其間凡ソ十八萬年ナリト云フ動物學者ハ人其初メアミーバノ如クナリト云ヘリ果シテ然ラバ猿ノ如キニ至ルマデ亦タ幾億年ヲ經シヤ知ルベカラズ御影石トナルマデモ亦タ然リアミーバノ時代元ヨリ恐懼尊敬ナドノ念ナク之ヲ發スルニ及ブマデ其進化幾

埃ゾヤ余ハ此等ノ研究ハ暫ラク地哲諸學ノ範圍ニ驅リ還テ宗教發生ノ途ニ歸順セン以上ノ如ク宗教ナル名目ヲ附シ其範圍ノ定マルマデ幾億ノ長年月ヲ經過セシカ之ヲ知ルニ由ナキモ彼等ガ恐懼尊敬ノ念ヲ發セシヨリ以來人智幾多ノ星霜ト共ニ跡ヲ追ヒ遺ヲ受ケテ進行シ人民繁殖其數ヲ増セシ頃口適々拔群高才ノ人アリテ顯示ヲ與ヘ式法ヲ作り遂ニ一宗教ヲ形造セリ

凡ソ宗教ハ國內萬般ノ事情ニ順應スルモノニシテ譬ヘバ寺院ヲ建築シ死者ニ衣食住ヲ供フルハ工作ニ基キ(太古ノ蠻族ハ睡眠ト死亡トヲ知ラズ強力ナルモノ眼覺メテ衣食ヲ求メ他族ヲ苦シ其ノ死亡セルモ猶ホ睡眠セルトト思ヒ幾時カ又タ起ツベシト思意シ死者ニモ供食セシヨリ遂ニ此等ノ式ニ及ビシト云フ説モアリ)神佛ノ像ヲ刻ミ殿堂ヲ修飾シ音樂ヲ奏スルハ美術ニ基キ天堂ノ快樂宇宙ノ玄奧ヲ讚美スルハ文學ニ基キ犧牲ヲ供シテ豐年ヲ祈リ廣大ナル宮殿ヲ設ケテ子孫長久ヲ願フハ換易ニ基キ寶錢箱ニ金錢ヲ投シテ福ヲ求メ守札ヲ携帯シテ危難ヲ免カレントスルハ賈買ニ基キ心ヲ清淨ニシテ福徳ノ來ルアリトスルハ施與ニ基キ主宰附庸ノ有無ヲ定ムルハ法律ニ基キ禮拜讚嘆葬祭ヲナスハ禮儀ニ基キ親愛慈惠ヲ主トスルハ道義ニ基クガ如シ而シテ宗教ノ体面ハ人

智進ムニ從テ是等諸種ノ要素變更改化シ隨テ早カ晩カ改良前進シ遂ニ今日ノ如キニ至リシナリ余ハ已ニ言ヘリ社會ハ真理ノ一大競争場ニシテ優勝劣敗ハ其ノ數ヲ免カレズト現今全地球上宗教其ノ數ニ乏シカラズト雖モ陳々腐々勝者ノ爲メニ自ラ其跡ヲ隠シ真理ノ光輝ニ照ラサレテ微々其根ヲ滅スルノミ活眼ヲ開テ諸教ノ盛衰如何ヲ見ヨ回教ハ如何ン婆羅門ハ如何ン彼等ハ殆ド論ズルニ足ラザルナリ基督教ノ如キ亦タ之ヲ佛教ニ比セハ素ヨリ同日ノ論ニアラザルモ世間活識ノ人甚ダ少ナク文物盛ナル今日ニ於テ真理愛護ノ當時ニ於テシカモ我ガ日本ノ皇洲ニ於テコレガ信徒ヲ養生シ漸々其數ヲ増サントスコレ豈ニ憂フベキノ極ナラズヤ近頃ロ演說ニ雜誌ニ稍々佛教振興ノ策ヲ講ズルモ或ハ議論高尚ニ過グルアリ或ハ一宗ニ偏スルアリ間々基督教ヲ駁スルノ人アレド多クハ彼レノ根本ヲ知ラズ只ダ聖書ニ拘泥シ解釋ヲ誤テ却テ彼徒ニ笑ハルヽアリ甚ダシキニ至テハ自宗ニ迷執シ他宗ヲ斥シ内争ヲ外教ノ如何ヲ顧ミザルモノアリ嗚呼歎クニ堪ユ可ケンヤ余例ヘ文章其体ヲ失シ字句ノ間精鍊ヲ闕クモ真理ノ爲メニハ譏譽褒貶ヲ顧ミズ斷然決然章ヲ追ヒ句ヲ重テテ佛耶兩教ノ起リシ所以

原紀之教宗

及ビ其ノ由來等ヲ畧述シ以テ是非ノ斷定ヲ下セシ偏チシ識者ノ意見ヲ仰ギ護法愛理

忠君愛國ノ民タラントス

附加

余聊カ宗教ノ主要ナルモノ及ビ信徒ノ數ヲ記載シ以テ讀者ノ參考ニ供ス

(一) 佛教ハ釋迦牟尼佛ノ教旨ナリ

日本、支那等亞細亞東南部ノ人民コレヲ信向ス

(二) 基督教ハ耶穌基督ノ教旨ナリ

歐米各國ノ人民コレヲ信向ス

(三) 婆羅門教ハ婆羅門ヲ天地ノ主宰者ト信奉スル處ノ教旨ナリ

印度人ノ大半コレヲ信向ス

(四) 回々教ハ預言者マホメットノ教旨ナリ

亞拉比亞、土耳其、波斯、埃及、亞弗利加ノ北岸東岸ノ人民コレヲ信仰ス

此ノ他猶太教徒或ハ偶像教徒等アリ

原紀之教宗

各宗徒ノ數左ノ如シ

佛教徒 五億

基督教徒 四億二千万

婆羅門徒 一億四千万

回々教徒 一億二千万

偶像教徒 二億三千五百万

猶太教徒 八千万

(以上佛蘭西ノ地理學者フオンシンノ宗教統計ニ依リシモノニテテ、ヒユヅ子ルノ宗教統計ト少シク異ナル所アリト雖モ大差ナシ今掲ゲテ以テ一覽ニ供セリ)

耶穌出世之理由

古人已ニ言ヘリ盡ク書ヲ信ズルハ書ナキニ如カズト。スベンサー曰ク精神ヲ書籍ノ犧牲トナス勿レト。宜ナル哉言ヤ世間書籍ノ犧牲トシテ身ヲ誤ルノ人……盡ク書ヲ信ジテ却テ書籍ニ活用セラル、人……痴漢呆漢馬漢鹿漢……噫……滔々タル天下ノ自稱才子……自許文明國宗教ノ耶穌奉信者皆ナ是レ……憐ム才子コレ豚兒信者コレ

耶蘇出世之理由

迷執ノ人一身ヲ誤テ衆人ヲ誤ル得々鼻ヲラごめかせドモ遂ニ有害無効寧ロ驕然學ヲ廢シ馬車ノべつとらトナリテハ如何猶ホ書籍ノべつとらトナルニ勝レリ余ハ盡ク聖書ヲ信セザルニアラザルモ盡ク信ズル能ハズ彼ノ信者ト稱スルモノヲ見ルニ多ク聖書ヲ以テ正當確實毫毛モ誤リナキモノト信ジ苟クモコレ記載シナキ者ハ皆ナ以テ全ク其跡ナシト迷信セリ彼ノ書豈ニ不利ナルモノヲ記載センヤ余今猶太人ノ性質ヨリ聖書ノ事跡ヲ論據トシ「キリスト」ノ出デシ顛末ヲ畧述シ彼レモ一世ノ豪傑ニ過ギザルモノナリト確言セントス

亞細亞洲中最西ニ位シ西ハ地中海ニ面シ西南ノ一部埃及ニ接シ東ハシリアニ隣シ國中ノ一市ベツレヘムヨリ一教祖ヲ出セシハコレ即チ猶太ナリ

猶太人ハセミチシ種ノ北部ニ屬シ有爲ノ資アリテ大業ヲ企ツルニ適スルモ執拗頑梗ニシテ舊染ノ陋習ヲ守リ感情ニ強ク幻想ニ巧ミニシテ虚誕ニ惑溺シ小害ヲ被ムルスヲ深ク怨恨ヲ懷キテ敢テ危難ヲ顧ミザルノ性ヲ有セリ曠野ニ張幕ヲ張リテ牛羊駱駝ヲ牧養シ遊牧ヲ事トシテ廣ク外人ト交通セザリシキ上帝專ラ我族ヲ保護スルトナシ

諸部落ノ次第ニ結合シテ強國ノ体ヲナセシキ上帝殊ニ我民ヲシテ全地球ヲ服セシム
 ト固信シ隣國ノ暴威ヲ逞フシテ常ニ慘酷ノ域ニ馳ラレシキ上帝必ラズ救世ノ主ヲ降
 シテ異類ヲ苦シメ之ヲ救フトシ膏血ヲ絞ラル、モ束縛ヲ受クルモ固ク信ジテ疑フ
 ナカリシナリ此ノ故ニ當時甚ダ質朴ナリシモ彼等ノ確信ヲ疑ハザル所ノ言アリ曰
 ク天帝ハ曾アブラハム(人民ノ父ナル意)ニ告グルニ吾ハエルシヤダイナリ我レ爾ト約ス
 爾チ萬民ノ父トシテ子孫ヲ繁衍シ永クカナノ地ヲ有セシムヘシト云ヘシト又タジ
 ヤコブ一夜石ヲ取テ枕トシ夢ニ上帝山巔ニ在ツテ告ゲテ曰ク我ハ爾ノ父アブラハム
 并ニアイザツクノエロヒムナリ汝ノ子孫東西ニ繁衍セント親族擧ゲテエジプトノ邊
 疆ニ轉住シ數代ヲ經テ苛刻ノ刑政ニ遇セラル、ヤ彼等皆ナ悲嘆ノ境ニ沈メリ時ニ「モ
 セス」ナルモノアリ甚ダ怜悯ニシテ善良ノ教育ヲ受ケシモノナルガ彼レハ自家固有ノ
 エホバト云フ神ヲ稱揚シテ常ニイスライル人ヲ護スル所ノ神即チ上帝ナリト唱ヘ更
 ラニ衆ヲ鼓舞シテ曰ヒケルハ上帝予ニ左ノ如ク教ヘ賜ヘリ我ハアブラハムジャコブ
 ニハエホバノ本名ヲ稱セザリシモエル、シヤ、ダイノ名ヲ以テ顯出シカナノ一境ヲ賜

フヲ約セリ今ヤイスライル人ノエジプト人ニ使役セラレ殘酷ヲ極ムルノ狀アリ我
 レ前約ヲ念フテ爾ヲシテ彼等ニ告ゲシム我ハ上帝ナリ爾等ヲ極ヒ負債ヲ釋キ役事ヲ
 罷メシメ傲慢ノ黨類ヲ罰セン我レ爾等ヲ以テ民トナシ常ニ爾等ノ上帝タルヲ以テ先
 ズ爾等ヲ導キテ曾テアブラハム等ニ約セシ土地ニ入ラシムベシト彼ノ怜悯詰殺ナル
 モセスハ此ノ如キ奇言ヲ發シ種々ノ妙計策畧ヲ設ケ彼等ノ信用ヲ得然ル後一族ノ一
 部落ヲ將非テアラビヤニ遷レ渺茫タル沙漠ニ歩シ乾燥タル空氣ヲ呼吸シ不充分ナガ
 ラ種々ノ格率ヲ制定シ宗教ノ模様ヲ一變シ人神合体ノ政法道義ヲ作爲スルノ端緒ヲ
 開ケリ(舊約全書出埃及記十八章ノ事 跡ニ由リコノ論ヲ作出セリ)久シクシテ後チカナノ地ヲ一定シ人家増殖シテ十二
 三ノ部落ニ別レ時ニ葛藤ヲ生ゼシトアリシモ年ヲ經ルニ隨テ次第ニ住居ヲ定メ農業
 ニ孜々タリシガ異邦人ノ猛烈ニシテ絶エズ侵襲ヲ試ミルヨリ此ニ部落ノ結合ヲ感ジ
 サムエルノ審司トナリシハ一致其功ヲ遂ゲサウルナルモノヲ君主ニ選ヒ支配セシメ
 シヨリ頓ニ國家ノ形狀ヲ成セリ(舊約全書撒母耳前書十一章十四 茲にサムエル民にひけるはいざ
 きて彼處にてエホバのまへにサウルを王となし彼處にて酬恩祭をエホバのまへに獻げサウルとイスラエルの人々
 皆かしこにて大に祝へり、 同十四章四七 かくてサウルイスラエルの王の位につきて四方の敵を攻む即ちモア

プ、アンモンの子孫エドムヤハの王たちよびヘリシテ人をせめけるに凡てむかふところにて勝利を得たり四八
 サウル力をえアマレク人をうちてイスラエルを其劫掠人の手よりすくひいだせり、撒母耳後書二章八、愛にサ
 ウルの軍の長子ルの子アブサウルの子イシボセアを取りてこれをマハナイムにみちびきわたり、(ダビデノ
 九、ギレアデミアシユリ人とエズレルミエフライムミベニヤミンミイスラエルの衆の王さふせり)ダビデノ
 デユダニ起リ兵力ヲ以テ王位ニ即クヤ(撒母耳後書二章十、サウルの子イシボセテはイスラエルの
 王さふせりし時四十歳にして二年のあひだ位にありしがユダ
 の家はダビデにまたがへり、撒母耳後書五章一、愛にイスラエルの支派威クヘブロンにきたりダビデにいたり
 ていひけるは視よ我等は汝の骨肉なり、二、前にサウルが我等の王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入す
 る者さうきまかしてエホバ汝に汝わが民イスラエルを牧養はん汝イスラエルの君長ならんといひたまへり三
 斯くイスラエルの長老皆ヘブロンにきたり王に語りければダビデ王ヘブロンにてエホバのまへにかれらと契約を
 たてたり彼らさふはちダビデに膏)エルサレムヲ都城ニ定メテ内ニ上帝ノ置ヲ置キ大舉シテ
 四隣ヲ壓倒シ紅海ヨリユーフレーツ河マデ己レガ管轄トナシ權威赫々其ノ強大ナル
 實ニ一世ヲ眩惑セリ大臣ノ職ヲ兼テタルナサンナルモノアリ上帝ノ告グル所ナリト
 テ王ヲ稱シテ曰ヒケルハ彼レ將ニ我が爲メニ殿ヲ建テントス我レ其ノ國祚ヲシテ永
 世ニ替ラザラシムベシ我レ必ズ其父タリ彼レ必ズ我ノ子ナリ若シ惡ヲ働カバ我レ之
 ヲ誦讓スル恰モ人ノ其子ヲ責ムルガ如ク待ツニ慈惠ヲ以テシテ毫モサウルノ恩義已
 ニ絶ヘタル如クナラズト(余一々聖書中ヨリ其本文ヲ摘發シテ此處ニ記セント欲セシモ却テ繁重ノ患ア
 ルヲ以テ只ダ見安カラシコトヲ計リ聊カ章節ノアル所ヲ記シテ以テ讀者ノ自閱
 ナクハ以上ノ事跡撒母耳後書八章同十四章十七ヨリ二十マデ全七章八ヨリ十六マデ全三章十二ヨリ五マデ全五
 章三十、撒母耳前書十八章二十七詩篇六十篇二十四篇、列王記上十一、十三、雅歌八、六章、歷代志略上二十七章

二十五ヨリ三十一等ニ就テ檢閲セバ)蓋シ偉大ノ功業ノ爲メ廉潔ノ臣ヲシテ昏迷セシメ便佞
 ノ如クナラシメタルヤ疑ナシ……噫……其ノ子ソロモンハ父ノ餘威ヲ藉リ上帝置ヲ
 藏スルガ爲メ華美ヲ極メ壯嚴ヲ盡シタル殿堂ヲ建築シ且ツ遠ク諸國ト交通ヲ開キ幸
 ニシテ國富ミ財貨ヲ得ルコト非常ナリシカバ日々饗宴ヲ張リ奢侈ニ流レ政ヲ施シ事
 ヲ處スル緩急其ノ度ヲ失セシヨリ遂ニコレガ反動ヲ起シ急ニ衰頽ノ境ニ陥レリ噫……
 ……志ヲ得テ驕ヲ恐レズンハ如何ニ上帝ノ裔ナリトモ……
 レホボアム繼テ王位ニ登ルニ及ンデジユダト他ノ一部落ノミ忠義ヲ盡セシモ北部ノ
 民族ハゼロボアムナルモノヲ奉ジテ別ニ一國ヲ成立シエルサレムヲ以テ其ノ南ニア
 ルノ故ヲ以テ之ヲ南朝ノ都城トシジエケムヲ以テ南朝ニ對シテ北朝ノ都城トシ互
 ニ其ノ祖先ノ一ナルコトヲ忘レテ敵抗シ恰モ日本南北兩朝ノ如クナリシハ豈ニ憐ム
 ベキノコトナラズヤ殊ニ北朝ハ篡奪弑殺ヲ以テ王位ニ即キシモノ十有餘人ナリシト
 云フホシア王ニ至リアッレリア王ノ爲メニ侵襲セラレタリ南朝モ衰頽萎靡シ昨ハエ
 シプトニ朝貢シ今ハアッシリア、バビロンノ管轄トナリ因循姑息ニ時ヲ移シ昨ハ王侯

ノ富今ハ巷路ノ貧モ管ナラザル状態ヲ來タシ唯ダ外邦ノ意ニ順センコトヲ勉メ居リシガ遂ニバビロン王ノ慘酷ヲ受ケ都城ヲ破壊セラレ王族ハ殺戮セラレ人民ノ財産ヲ有シ藝術ニ達鍊スルモノハ盡ク浮囚ニセラレタリ嗚呼後ノ國ヲ憂フルモノ内争ヲ止メ外侮ヲ防ガズシテ可ナランヤ

北朝人ハ護送ノ後其ノ狀ヲ知ラザレド南朝人ハ五拾餘年ノ間ハビロンニ生計ノ途ヲ營ミシガベルシヤ王ノバビロンヲ亡ボスヤ許サレテ本國ニ歸リエルサレムノ都城ヲ再興シベルシヤノ屬國トナリテ太平ノ歌ヲ詠ゼシカ屯歴山帝ノ大軍ヲ帥非テベルシヤヲ滅シ統御宜シカラザリケレバ争亂諸處ニ起リ亦タ昔日ノ光リナシリアノ王勢ニ乗シテ不意ニエルサレカヲ陷レ猶太ノ人民ヲ屠殺スルヲ四千人奴隸ニスル亦タ四千人猶ホ嚴令ヲ下シ曰ク此ノ人種ニ屬スルモノヲ盡ク殺戮セヨト猛惡無情ノ兵卒踴躍喚起喜ンテ殘ヲ窮ム民怨滿チテ義人顯ルノ謂ヒカ時ニマタチヤノ一家學テ義ヲ唱ヘ難ニ赴キ漸ク猶太ノ獨立ヲ致セシハ實ニ偉ナリト稱スベシ然ルニ久シカラズン黨派ノ分離ヲ生ジ外國ノ力ヲ假リテ内治ノ爲メニセシカバ遂ニ羅馬ノ暴戾ナル羈縛

由理之生出蘇耶

由理之生出蘇耶

ヲ被ムルニ至レリ噫々悲ヒ哉羅馬ノ政權タイベリアスノ手ニアリシ時彼等ノ慘狀殆ンド口筆ニ寫シガタシ政体實ニ壓制ヲ極メ租稅甚ダ過多ニシテ佞人却テ勢力ヲ得賢者其ノ跡ヲ隱シテ國粹ナク只ダ暗夜深中ニ彷徨スルノ感アルノミ然ルニ半開ノ人民ハ概テ既往ノ豪傑ヲ貴ンテ舊染慣習ニ拘ハルノ情アリ況ンヤ昔日強盛ノ域ニ達シテ今ハ極メテ衰頹ノ地ニアルヲヤ豈ニ舊ヲ追慕シテ世ノ澆季ニ赴クヲ歎セザランヤ且ツ頑梗ニシテ因循ニ流レ想像ヲ逞フシテ虛誕ニ溺ルノ性之ヲ祖先傳來ニ有スル猶太人ニシテ古代ヲ羨望追思セザルノ理アランヤ夫ノ自ラ上帝ノ保護スベシト信ジタル猶太人ソモ彼等ハ勢ヒ此ニ至リテ果シテ何ヲカ願ヒシカ他ナシ嗚呼他ナシ彼等ハ先輩ノ預言ニ從ヒ上帝ノ眷佑ニヨリテダビデ王ノ盛大ノ如クナランコト只ダ此ノ一事ナリ

猶太ニハ古ヨリ預言ノ一職アリテ新政府ノ組織アリシ以來僧侶ハ單ニ祭祀儀式ノミヲ掌司シ法儀ヲ説キ道德ヲ勸メ過去未來ノ事實ヲ辨明スルハ専ラ預言者ノ職掌スルコトナレリサムエルナルモノ出デ預言ノ規制ヲ一定セシヨリ之ニ從事スルモノ續々

由理之生出蘇耶

輩出シ大抵ハ一身ノ善行ヲ表示シテ世俗ト背馳スルヲ意トセザリシモ時ニハ狀勢ニ
 應ジテ國家ヲ獨立セシムルノ謀計ヲ爲シ人民ヲ鼓舞慰藉スルノ預言ヲ吐ケリシヨエ
 ルハ異教ヲ奉ズルノ徒ハ苦ヲ受ケ上帝ヲ信スルモノハ永遠ニ福祉ヲ享クベシト云ヒ
 イザイアハ上帝惡黨ヲ刑戮シ良民ヲ救濟シ猶太ノ境界ヲ延袤シテ地極ニ至リ窮民ヲ
 救ヒ死者ヲ甦ラシ塵土ニ居ルモ尙ホ勃然トシテ起ラシムト云ヘリハガイハ天地震動
 シ國位顛倒スルニ當リダビデ王ノ後ヲ承クベキゼルハベルノミ大權ヲ得ルナラント
 云ヒアモスハベツレヘムヨリ主宰者出デエルサレムモ亦タ大都會トナルヲアルベシ
 ト云ヒ其他猶太ノ繁盛シテ外邦ノ衰亡スルヲ説クモノ甚ダ多カリシガ漸々詳密ヲ
 加ヘ預言ヲ巧ミニシ就中人心ヲシテ強ク感動ヲ起サシメンハ救世ノ主神力ニ賴リテ
 マビデノ家ヨリ出ルニ於テハ特選ノ良民大ニ快樂ヲ有シ從來暴戾ヲ極メシ強族ハ盡
 ク壓服セラル、ニ及ブベシトノ預言是レナリ

羅馬ノ嚴政ヲ猶太ニ施スヤ老弱男女上下一族皆落涙シテ早ク救世主ノ出デ來ラン
 ヲ渴望スルヲ恰モ孟子ノ所謂七八月ノ大旱ニ雲ノ油然トシテ起リ雨ノ沛然トシテ降

由理之世出迦釋

ルニ於ケルガ如クニテアリキ時ニ知識アルモノ或ハ思ヒシナルベシ救世ノ主ナリト
 自稱シ預言者ノ言ニ應起シテ活潑ノ舉動ヲナサバ衆民ヲ奮起シテ稿苗ノ勃然トシテ
 興ルニ異ナラザラシムルコト難キニアラズト始メテ之ヲ思ヒ且ツ之ヲ行ハントシ百
 方妙計ヲ盡シヨハチト謀リ(彼ノヤソノ徒ハ必ズ問フテ曰ハンコハチト謀リシ事實アリヤト是レ余ガ本
 書籍ノ犧牲ニスル
 卒ノ始メニ於テ不利ナルモノ之ヲ記載セシヤト云ヒシ所ニシテ又々精神ヲ
 ノ致ス所憐メベシ)吾ハ汝等ガ望メル如ク上帝ノ意ヲ承ケテ諸人ノ艱苦ヲ救濟スルノ主
 ナリト稱シ遂ニ究民ノ心ヲ收攬シテ公衆ノタメ大ニ爲ス所アラントシ不幸ニシテ熱
 心ノ徳アルモ撥亂ノ才ナキニヨリ有司ノ猜忌ト愚人ノ失望トヲ來タシテ空シク磔刑
 ニ處セラレシハ誰ゾ曰ズシテ——耶蘇

釋迦出世之理由

余ハ印度ニ於テ佛教起原以前ノ記載ニ就テ種々ノ書籍ヲ閱讀セシモ其ノ説ク所雜多
 ニシテ一ナラス記者各々推斷ヲ以テ諸説ヲ附シ牽強附會理非ヲ混亂シ孰レカ果シテ
 事實ナルカヲ判斷スル五里霧中ニ彷徨スルノ思ヲナサシム而シテ又々茲ニ左程詳論
 ノ必要ヲ感セザルヲ以テ余ハ如何ナル場合ニ於テ釋尊ノ出デラレシカヲ只ダ一言シ

速カニ後章ヲ叙セントス

南方亞細亞三半島ノ中位ヲ占メ北ニ雪山^{ヒマラヤ}地控ヘインダス河ガンジス河及ビ其他ノ諸流ニ依テ水溢ヲ被ムリ水退クキ粘土ヲ胎シ土肥豐饒ナル平原ヲ有シ南ハガンジス河ヨリピンデイスノ山脈マデ擴張シ太古文明ノ魁ト呼バレシハコレ乃チ印度ナリ

一般史家ノ説ニヨレバ其昔波斯ノ東北バクテリアノ近傍ニ住シ既ニ耕作ノ法ヲモ知リ亦タ純然タル野蠻人ニハアラザリシアリアン人ガ歴史時代ノ前ニアリテ分レテ二トナリ一群ハ西シテ歐洲ニ入り一群ハ南行シテ波斯、印度ニ入り初メエンダス河ノ邊ヨリシテ土人ヲ攻撃シ次第ニガンジス河ノ邊ニ及ビ北方ノ山地南方ノ高原ニ於テ自己ノ隱舎ヲ構ヘシト云フ

由理之世出迦釋

當時(耶穌紀元前二千年頃)彼等ハ能ク金屬ヲ分知シテ器具ヲ製シ又 *Soma* ト稱スル植物ヨリビール様ノ酒ヲ釀製シテ之ヲ飲用シ其ノ他舟車ヲ造リ牧羊ヲ事トシ文學ノ開進セル已ニ神ヲ讚美スル千拾七ノ琴歌アリ女王貴女ノ手ニ成ル美歌モアリ宗教ノ如キ一定ノ形式アリテ供物ヲ設ケ各僧侶其ノ職掌トスル所アリテ自ラ規矩順序ヲナセシモノ、如

由理之世出迦釋

シ然レニ彼等崇奉スル所ノ神ハ日月、雷電、空天、風雨、植物等ニシテ外圍ノ事物ヲ畏懼尊敬セリ(宗教起源論ヲ見バ其理明カナラン)爾後殆ンド千餘年ヲ經アリアン人ノガンデス河邊侵入ノ頃口宗教ノ模様モ次第ニ變遷シ來リ從テ思想ノ發達ニ二流ノ別ヲナセリ蓋シ印度ニハ太古ヨリ人民中ニ四ケノ等級アリ第一ハ僧侶ニシテ宗教上ノコハ勿論兼テ哲學ヲ修ム第二ハ軍人及ビ官吏ニシテ各其ノ職ヲ擔リ第三ハ商人及ビ農夫第四ハ工人其他諸種ノ賤役者ニシテ殆ンド奴隸ニ等シク各異級ノ人互ニ婚姻スルコトヲ得ズ下級ノ輩ハ宗教上ノ談話ニ於テ互ニ之ヲ語ルコトナク上流社會ノ講談モ之ヲ聞クコトヲ禁ジ若シ立聞キスルモノアルトキハ之ヲ捕ヘ耳ヲ切斷シ口ヲ燒ク等其苛刻ノ狀實ニ言語ニ絶セリコノ故ニ下層ノ人民ハ益々卑ク上層ハ益々驕大ニシテ遂ニ四ケノ等級ヲ生シ下層ノ輩ハ終始奴隸ノ境內ニ使役セラレ文學ヲ習讀スルノ時ヲ得ズ思想才自ラ卑屈ニシテ智識ノ開發長伸スルコトナク隨ツテ事理ヲ解スルノ才能甚々少ナシコレニ反シ上層ノ徒ハ學理ヲ講究シ事理ヲ考ヘ智識其ノ量ヲ増加シ婆羅門徒ノ如キハ最モ上流ニ位シテ *The Brahminical code* 數ケノ規律ヲ設ケテ下民ヲ支配シ獨リ富貴ヲ極メタ

由理之世出迦釋

リ耶穌紀元前六七世紀ノ間諸派ノ哲學家續々輩出シ甲論シ乙駁シ靈魂ニ就テモ種々ノ議論ヲナシ文學ノ盛ンナリシハ實ニ驚クベキ時代ニシテ佛教ノ顯ハレシモ亦此ノ世紀ナリト云フ婆羅門ノ如キハ多神教ヨリ進ンザル結果所謂宇宙萬物ヲ以テ神トスル所ノ萬有神教ニシテ且ツ輪廻(印度文學ニ於テ始メテ輪廻思想ヲ表ハシタルハSitapatha Brahmanaナリ)ノ說ヲナセリ此ノ如ク人民中智識隔絶シ職品流ヲ論ジ因習俗ヲナシ父子其業ヲ世々ニスルヲ久クシテ貴賤殆ンド別人ノ如ク隨テ宗教思想ノ發達又タ大ニ其ノ赴キヲ異ニシテ二流ノ別ヲ生ズルニ至リシハ勢ヒノ然ラシムル所復タ如何トモスベカラザルナリ印度ノ破壞實ニ茲ニ原ヅクト謂フモ不當ノ言ニアラサルナリ乞フ以下二流思想發達ノ概畧ヲ述ベン

佛陀ノ前久シク印度人民中ニハ宗教思想ノ發達ニ二流アリケリ下層ノ人民ニハ多神教ノ遺傳アリテ物象怪力ヲ神トシ崇メツ、一隊ノ神軍ヲ作り出ダセリ是等ハ目ヲ驚カシ耳ヲ喜ハスベキ祭祀ヲモテ尊マル、ナリ凡ソ人ノ最モ嫌惡スル所ノ感情ハ最モ強大ノ辨識ヲ要シ隨テ最モ想像ヲ逞クスルノ原因トナルモノニシテ其嫌惡スル所ノ事物ノ變勢ヲ究察シテ憂慈悲歎ヲ減少スルノ理想ヲ得ント欲スルモノナリ彼等印度

由理之世出迦釋

下層ノ徒ハ尤モ死亡ヲ嫌惡セシトハ勿論ナレモ如何ニシテ之ヲ悟ルベキカ更ラニ之ヲ考フルノ智識ナク只ダスラ平常弱者ガ強者ニ供物ヲ呈シ專ラ歡心ヲ買フガ如ク供物ニ依テ死後ノ安慰ヲ祈リ只ダ死後賞罰アルヲ思フテ輪廻ノ思想ハ之ヲ有セザリシナリ然ルニ上層有識ノ人ハ宗教ニ混淆スルニ哲學的ノ推理ヲ以テシ外國事物ノ支配ヲ受ケ漸々人心ノ懷異從秘的ニ流ル、ヤ實ニ輪廻思想ノ始源ニシテ彼等ハ一回ノ死ヲ以テ撲滅ノ苦終ハリ死ノ威勢絶ユベシ一信ジ克ハズ死ガ此ノ世ニ於テ何時如何ニ殺スヤ知ルベカラザルガ如ク彼ノ世ニ於テモ始終遂ニ死ノ處タルヲ免カレザルナリト又タ何レノ世ニモ死ノ威勢ハ強クシテ若シコレニ供物ヲ奉ラズンバ死ハ世々追ヒ來リテ吾等ヲ捕ヘナン若シ供物ヲ奉ラバ我々世々安カルベシト斯クテ漸ク信ジ初メケルヤウ若シ此世ニ於テ宗教上ノ法戒ヲ守ラザルモノハ幾度カ死ニ逢ハザルヲ得ズト(上古再生ト云フ代リニ再死ト唱ヘ來リシモ此ノ故ナラン)斯ク不斷撲滅ノ勢力トカラ角シ苦難ノ世ト必死ノ戰ヲナサマルヲ得ザルハ蓋シ相像ガ畫ガキ得ルモノ、中ニ就テ最モ凄ゴク恐ロシキモノニシテソノ是ガ辨識ヲ與ヘ輪廻ノ說ヲナセシハ日常上流ニ在テ學理ヲ研磨セシノ

果ト云フヘシ後チ思想ノ漸次發達スルヤ普同完全一流ノ神体アトマン即チブラマーノ如キモノヲ發見セシヨリ轉々諸論ヲ一進セリ然リト雖モ彼婆羅門徒ノ如キハ順序アル規則ヲ立テ輪廻ノ說ヲ有シナガラ彼等ハ只ダ口ニ之ヲ云フノミニシテ下層人民ヲ救済スルコトヲセズ門内亦タ爭論ノ絶ユルコトナク萬有教トハ其名ノミニシテ行爲舉動更ラニ其實ナシ憐寧ロ小蟲ニ及ブモ人民ヲ意トセズ勉メテ苛逆ノ待遇ニ處セリ噫々下層人民ノ辛慘如何ンゾヤソレコノ状態ニシテ如何ニ宗教理論ヲ違フスト雖モ如何ニ文事華美ナリト雖モ豈ニ國家真正ノ光輝ヲ顯ハシ眞ノ文明ヲ形造スルヲ得ン世人往々太古印度ノ文明ヲ稱スルモノアリト雖モ余ハ決シテ之ヲ文明トシ視ザルナリ實ニ當時人心アルモノナシト云フモ何ノ不可カコレアラン苟シクモ人心アルモノ豈ニ之ヲ救済スルノ工風ヲ凝ラシ國家ノ惡弊ヲ除カズン可ナランヤ是ノ時ニ當リ人心ヲ有シ私情私慾ヲ抛テ一大工風ヲ凝ラシ人ノ人タル所以ヲ考ヘコレニ依テ一大真理ヲ發見シ百万千計方術ヲ用非實踐躬行人民ノ平等ニシテ毫毛モ差別ナキヲ說キ其ノ他大ニ宗教上社會上ノ改良ヲ圖ルモノ出デズシテ可ナランヤ而シテ其ノコレヲナス

由理之世出迦釋

モノ實ニ完全タル教育ヲ受ケ學理ニ貫徹シ人望ヲ得タル空前絶後ノ大聖人トモ呼バ
ルベキ人顯出シ百万方盡力スルニアラズンハ安ソ之ヲ濟度スルヲ得ン豈ニ一工夫ノ
子ノ能クスル所ナランヤ嗚呼然リ實ニ然リ物必要ヲ感シテ始メテ起ル此ノ際印度人
ノ救世仁者ノ出デ來ランコトヲ渴望セル大旱ノ降雨ヲ望ムガ如ク必要ヲ感セシヤ知ル
ベキナリ降雨ナクンハ青苗枯レンノミ救主出デズンハ蒼生ヲ如何ン時ニ其渴望ヲ滿
足セシメント決然意ヲ決シ斷然志ヲ立テ起リ今日世界第一ノ教祖ト仰ガレ千載不變
ノ真理ヲ發見セシモノアリ誰ソ曰ハズシテ……釋迦

附加

救世尊ノ降誕シタマエル聖地ニ關シテハ近來其確說ヲ聞クニ至レリ經ニ佛生加毘
羅成道摩竭陀說法婆羅奈入滅物締羅トアレド其如何ナル邊ニアルヤ知ルベキ由
ナカリシモ漸ク之ヲ知ルヲ得シハ恰モ深林ヲ出デシ思ヒアリト云フベシ

西曆紀元前六百二十三年ヒマレヤ山ヨリ殆ンド四十英里ベナレス府ヨリ東北一百
英里處ニ當レルヨナハ河ヲ帶ブル地方ニ降誕シ玉ヘリ聖父ハサトダナ王ニシテ母

由理之世出迦釋

由理之世出迦釋

ヲ摩耶夫人ト云フ太子姓ハ瞿曇名ハ悉達ト云ヘリ
 傳ニ曰ク太子幼ニシテ穎悟非凡ノ才智アリ能ク諸般ノ學術技藝ニ達シ高遠ノ師教
 モ速ニ學ビ得ズト云フナシ父王曾テ太子ノ爲メ内外莊飾ヲ極メクル三ヶノ宮殿
 ヲ造リ園中美麗馥郁ノ花卉ヲ植エ噴水池中ニ飛ビ凡ベテ物質的ノ新義ハ之ヲ極メ
 ザルナク宮女花ノ如ク歌舞巧ヲ爭ヒ常ニ太子ニ追從シテ歡樂ヲ補助セントセリ太
 子十六歳ニシテ善覺長者ノ女耶輸陀羅公ト結婚セリ以上ノ如ク父王ハ太子ヲシテ
 精神的事物ノ觀念ヲ絶テ以テ有形的俗事ノ愉快ニ誘惑セントセシモ曾テ其ノ成功
 ナカリシナリ然ル所以ノモノハ當世ノ狀態ヲ觀察シ人間ノ苦惱ヲ脱セシメント日
 夜苦心セルノ人ナレバナリコノ故ニ太子ハ人々ノ以テ樂ミトスル處却テ之ヲ苦ミ
 トナシ長ズルニ從ヒ益々精神的事物ノ觀念博厚ニ赴キ人間苦惱ノ秘蘊ヲ究メ得ン
 ト欲シテ多クノ時日ヲ費セリ太子自謂ラク人間生活ノ一大要務ハ心身苦惱ノ一源
 因ト之ヲ脱スルノ大道ヲ求ムルニアリト故ニ日夜九重ノ寶殿ニ於テ太子ガ接シタ
 ル浮世ノ歡樂ハ却テ自ラ究シテ得ントスル大苦ノ原因壓苦ノ好材料トナリシナリ

布弘之教督基

廿九歳ノ春遂ニ王宮ヲ脱シ馬ニ跨テ遠ク深山ニ向ツテ發足シアノナノ河邊ニ至リ
 馬ヲ下リ刀ヲ拔キ髮ヲ斷チ衣飾ヲ解キ之ヲ徒者ニ與ヘ歸ラシメ獨リ徒歩シテ婆
 羅門派仙人ノ住スルウルベーラノ森林ニ行キ教ヲ受ケシモ其ノ目的ヲ達スルヲ得
 ズ去ツテ佛陀伽耶ト稱スル森林ニ入り勤苦數年菩提樹下ニ坐ヲ占メ以テ成佛徳道
 ノ曉マテ其處ヲ離レザリシ其間實ニ難行苦行斷食セシモアリ辛慘ヲ嘗メラレシ
 ハ口筆ノ穿ツベカラザル所而シテ遂ニ自己ノ前生ト再生ノ原因ト及ビ欲心ヲ消滅
 スベキ方法トヲ知ルノ大智慧ヲ發セリ翌日ノ拂曉恰モ蓮花ノ開敷スルガ如ク識心
 全ク開達セリ是ニ於テ始メテ佛道ヲ成シ智慧明達ニシテ全能應化ノ地ニ達シタリ
 然リ太子果シテ人間苦惱ノ原因ヲ發見セリ後チ深林ヲ出テ諸々說法度生シ成道已
 來四十五年ニシテ化緣爰ニ盡キ五月水曜日ヲ以テベナレスヨリ百二十英里ナルグ
 シナガラニ於テ遂ニ大般涅槃ニ入り玉ヘリ此時億万ノ衆生ハ更ナリ天地自ラ悲哀
 ノ狀ヲ呈シ奔獸飛禽混虫ニ至ルマデ佛ノ八滅ヲ悲マザルモノナカリシトゾ

基督教之弘布

布弘之教督基

基督ハ羅馬皇帝アウガスタス(帝ノ至尊ノ稱號ナ意味ス實名ハオクタビ)ノ世ニ生レ次世タヘビ
 リアス帝ノ時磔刑ニ處セラレタリシモ(耶穌ノ歴史ハ新約全書ヲ見バ其ノ教
 法ト共ニ明瞭ナレバ本論ニ之ヲ省ク)一旦コレニ歸意
 セシ彼門徒等ハ猶太人固有ノ性質トシテ不屈執頑散ジテ諸方ニ行キ一壓ハ一壓ヨリ
 一杭ハ一杭ヨリ其ノ數ヲ重ヌルニ從ツテ却テ其ノ意ヲ固フシ益々其教ヲ弘布セリキ
 ロ帝ノ世使徒セントポールナルモノアリ小亞細亞希臘等ヲ經テ羅馬ニ來リ熱心其教
 ヲ説キシカハ府民ノ之ニ歸依スルモノ多カリキテロ帝之ヲ恐レテポールヲ始メ其ノ
 他ノ耶穌教徒ヲ殺戮セリ蓋シ當時羅馬ノ廣キ宗教亦タ其ノ數少カラザリシモ要スル
 ニ皆ナ多神教ニシテ其性質羅馬ノ國教ト甚マシキ經庭ナカリシガ故ニ羅馬人モ亦タ
 之ヲ禁制スルノ傾キナク只ダ默許ニ附セシナリ然レモ耶穌教ハ一神教ニシテ其性質
 全ク羅馬教ト異ナリ且ツ其教徒ハ熱心ニ異教信者ヲ攻撃シテ耶穌教ニ改宗セシメ夜
 陰ニ密會ヲ開キテ諸事ヲ談議シ又タ其ノ教語不穩當ノ詞多クシテ(馬太傳十章三十四節よ
 リ同八章地に泰平を出
 さん爲に我來れりと思ふかれ泰平を出さん爲に非ず亦を出さん爲に來れり夫わがきたる人を其父に背かせ女を其
 母に背かせ其姑に背かせんが爲なり人の敵は其家の者なるべし我より父母を愛む者は我に協はざる者なり
 我より子女を愛む者は我に協ざる者なり路加傳十二章五十一節我は安全を地に施んきて來ると思ふや我なん
 ぢらに告ん然す反て分爭しむ今よりのち一家に五人あらば三人は二人に敵對し二人は三人に敵對して分るべし父

布弘之教督基

は子に子は父に母は女に女は母に姑は其婦に婦は其姑に敵對して分るべし又馬太傳六章二十四節に人は二人
 の主に事ること能はず蓋シこれを惡かれを愛み此を親み彼を疎へければ也ふんぢら神と財に兼事ること能はず等一
 部を伺ふに足らん今聊(聊)頗フル危険ノ所業大カリシガ故ニ唯マ獨リ暴君苛烈ナルテロ帝一
 人ノミ彼徒ヲ苦シメシノミナラズ羅馬皇帝中賢君明主ト呼バレシトウラジアン、オ
 ーレリアンノ如キモ猶ホ之ヲ虐待セリコレ實ニ政治上止ムヲ得ザルニ出デシナラン
 然リ而シテ其虐待ヲ受ケシ爲メ却テ速カニ布教ヲ至スノ機ヲ得タリ彼徒ハ少シモ屈
 セズ益々其ノ志ヲ固クシ四方ニ散ジテ布教ニ從事セシカハ皇帝モ亦タ如何トモスル
 能ハズ三世紀ノ始メニハ遂ニ公許ヲ與ヘ次デコンスタンティン大帝ノ位ニ上リ自ラ
 耶穌ニ改宗シ其教徒ノ助ケヲ得テ内亂ヲ戡定セシカハ遂ニ基督教ヲ以テ國教トセリコ
 レヨリ其傳播甚ダ速カナリシ思フニ羅馬帝國ノ統一ハ實ニ耶穌擴布ノ爲メニ大ナル
 便利ヲ與ヘタルモノニシテ其始メコソ少シク困難ナレ一タビ勝ヲ制シテ國教トマデ
 ナリタル以上ハ帝國ノ各地ニアル異教信者ハ破竹ノ勢風ヲ望ンテオ自ラコレニ歸服
 スベク一撃ノ下能ク其力ヲ廣大ナル版圖ニ及ボスヲ得タリシナリ
 下ツテ千四百九十二年コロンブスガ亞米利加ヲ發見セシ以來歐洲諸國爭フテ土地ヲ

布弘之教督基

畧々殖民ヲナシ米人ハ屬國ノ支配ヲ受ケ可憐ノ生活ヲナセシガ千七百八十九年獨立國トナリシ以來繁榮日ニ倍シ次第ニ土地ヲ拓キ州ヲ并セ當今殷富天下ニ比ナキニ至レリ而シテ米人ガ耶穌教者ナルハ蓋シ殖民ノ際諸邦ヨリ持チ來リシモノニシテ傳來ノ所以神ノ命令ニアラズシテ時勢ノ然ラシムル所毫モ怪シムニ足ラザルナリ千八百廿一年ヨリ同シク八十七年ニ至ルマデ六拾六年間ニ歐洲諸國ヨリ來住セルモノ千四百二十万七千八百二十六人ノ多キニ達セリト云フ然リ彼等ハ皆ナ已ニ耶穌教奉信者ナリコレガ刺激ヲ受ケ此等ノ間ニ繁殖セシ米人ノ耶穌教者ナル何ンゾ驚クベキ理アラシヤ今ヤ進ンテ聊カ基督教ノ我國ニ入りシ頗末ヲ述ベントス天文十年辛丑ノ秋(此ノ年代ニ就テハ異同ノ説多シ今采覽異言ニ據テ記ス蓋シ足利氏ノ末ニハ相違ナカラシ)葡萄牙ノ商舶我豊後國神宮浦ニ來リシヨリ通商ノ道此ニ開ケ西洋基督教モ隨テ内地ニ入り利潤ニ拘ハラズ財寶ヲ以テ諸人ノ心ヲ收攬シ專ラ宗門ニ誘ヒ其ノ宣教師バテレン能ク力ヲ盡セシカバ當時ソノ説ノ理否ヲ辨セズシテ之ヲ信ズルモノ多ク長崎中ハ言ヲ待タズ近隣ノ諸人ミナ基督教ヲ信ジ寺社佛閣ヲ燒テ會堂ヲ設ケ殊ニ華美ヲ盡シテバテレンヲ以テ住僧トシ都合十一ヶノ寺院ヲ

布弘之教督基

建立シ次漸中國京畿ニ及ボシ信長モ亦タ一時之ヲ信ズルニ至リ頗フル盛ナリシモ豊臣氏ノ時其邪教ナルヲ看破シ大関筑前筥崎ニ着城セシ際バテレンソノ途中ニ出迎セシカバ大ニ怒ツテ速カニ歸帆ヲ命ツ且ツ臣下ニコレガ信徒二人アリシヲ聞キ筥崎八幡宮華表ノ邊ニテ磔ニ處シ禁令(今禁令ノ二三ヲ舉ゲテ聊カ見覽ニ供ス御停止書附之篇(天正十六年五月))

一日本ハ神國タル處ニ貴利支丹國ヨリ邪法ヲ授ケル甚以不可然事

一其國郡ノ者ヲ近付ケ門徒ニナシ神社佛閣ヲ打破ラセ候事前代未聞ニテ國郡在所知行等給人ニ被下候儀ハ當時ノ事ニテ天下ヨリ御法相守リ諸事可得其意候處下々トシテ乱ガハシキ儀曲事ノ事

一伴天連其智恵ノ法ヲ以テ心持次第且那ヲ持セ候中ト思召候所ニ右ノ如ク日域ノ法ヲ打破候儀曲事ニ候條伴天連ノ儀ハ日本ノ地ニハ被獲與問敷候間今日ヨリ廿日ノ間ニ用意可仕歸國其内下々伴天連ニ離レザル族有之ニ於テハ可爲曲事ノ事

一黒船ノ儀ハ商賈ノ事ニ候間各前々ノ年月ヲ經諸事費買可致事

一自今以後佛法ノ妨ヲ爲サザル輩ハ商人ノ儀ハ不及申何ニテモ貴利支丹國ヨリ往還不苦候條得可其意事

ヲ發布シテ教徒ヲ逐ヒ長崎ニ過料ヲ處シ痛ク之ヲ嚴禁セリ彼ノバテレンハ高木郡かつき村水月ニ足ヲ留メ機ヲ伺ヒシモ此ノ如クニシテ其勢ヒ當ルベカラザルヲ知り遂ニ歸帆スルニ至レリ次デ徳川氏將軍トナルヤ歐洲諸國通商ノ盛ナルヲ聞キ乃チ京師及ビ堺ノ商人ヲ西洋ニ遣ハスコレヨリ漸次外交ノコト將ニ大ニ發達セントセリ然ル

ニ會々天草ノ亂アリ耶蘇教徒多クコレニ與ス因テ再ビ耶蘇教ヲ嚴禁シ竟ニ國人ノ海外ニ出ヅルヲ禁止シ且ツ船舶ノ制ヲ立テ天下ニ令シテ大船ヲ造ルヲ勿ラシム是ニ於テカ國中復タ耶蘇徒無シ

嘉永年間(西曆千八百五十三年)米國大統領ピアスノ時水師提督ベルリ鐵艦ニ乗ジテ怒浪ヲ破リ我が國ニ迫テ通商ノ約ヲ結ブヤ諸國踵ヲ接シテ通商ヲ求メ約成テ居留地等ヲ定ムルニ至リ百般ノ制度文物ト共ニ宗教モ亦タ之ヲ傳來スルニ至リシナリ

附加

曩キニパテレン等ノ持テ來リシハ舊教ニシテカトリック其新教ヲ始メテ我が國ニ傳ヘシハ「プロテスタントペボン」(博士ニシテ當時明治學院長ナリト云フ)フルベツキ(博士ニシテ帝國大學ニ教授タリシト)及ビブラウン等ノ數輩ベルリト共ニ來タリ始メ長崎ニ於テ藩ノ學校教師ト成リ次漸傳道ニ盡力シ奥野某ノ數氏先ツ信者トナリ百方盡力セシカバ遂ニ今日ノ如ク勢ヲ逞フスルニ至レリニコライハ希臘教ヲ擴張傳道シ駿河臺ノ高堂一時世人ノ口端筆喧ヲ煩ハシユニテリアンハ近日ノ傳來ニ係ルモノノ說衆人ヲシテ心ヲ搖カサシムルノ狀アルガ如シ

基督之教弘布

佛教之弘布

凡ソ其物勢ヒテ逞フセントスルヤ邪正曲直ニ關セズ必ズコレニ抗抵スル者起ル蓋シソノ勢ヲ逞フスル所以ハ乃チ他物ヲ壓倒超過スルニ由レハナリ故ニソノ壓倒セラレントスルモノ必ズコレガ抵抗ヲ試ム又々誠ニ止ムヲ得ザルニ出ヅルモノカ印度ニ於テ佛教ノ勢力日ヲ追フテ盛ナルヤ婆羅門宗徒之ヲ恐レ遂ニ盡ク佛教徒ヲ國外ニ放逐セリ佛教徒ハ逃レテ錫蘭ニ隱レ西藏ニ入り更ニ支那朝鮮ニ傳播シ遂ニ日本ニ渡來スルニ至レリ今ソノ支那ニ傳播セシ以來ノ顛末ヲ簡述シ後チ日本ニ入りシ次第ヲ述セントスソハ本朝ノ佛教支那ヨリ傳播セシモノニシテ其ノ關係最モ密ナレバナリ抑モ佛教ノ支那ニ入りシハ佛滅後一千年ニシテソノ前印度ニ於テ佛教ノ狀態如何ンヲ考フルニ凡ソ一百年ヲ以テ一定ノ變遷ヲ來タセシ者ノ如シ聊カ次表ヲ掲ゲテ一覽ニ供ス

佛之教弘布

佛滅後四百年

中百年

純一寫瓶

佛 教 之 弘 布

ヲ立テ廬山ノ慧遠法師ハ百二十七人ノ社ヲ結ビ白蓮社ト號テ念佛三昧ヲ弘ム同二十年龜茲國ノ羅什三藏長安ニ至リ秦王姚興逍遙園ノ中ニ館ヲ造リ羅什三藏ニ詔シテ大品般若經及ビ法華經大論等ヲ譯セシム後チ四百五十餘年ヲ經梁武帝普通元年達磨大師南天竺ヨリ來朝シテ禪門ヲ開キ同ジク大同六年北齊ノ慧文禪師河南ニ於テ南岳大師ノタメニ一心三觀ノ口訣ヲ説ク續ヒテ菩提流三藏真諦支三藏來朝シ漢土ノ佛教隋唐ノ二代ヨリ盛ナルハ即チ隋ノ開皇十四年天台ノ智者大師荊州ノ玉泉寺ニ於テ一夏九十日止觀ヲ説ク此時ニ當テヤ念佛門ニハ曇鸞道綽等ノ師アリ三論ニハ嘉祥大師アリ唐ノ始メニ在テ玄奘三藏ハ貞觀三年ニ發足シテ天竺ニ至リ十七年ヲ經テ返朝シ瑜伽唯識俱舍因明等ヲ傳ヘテ專ラ法相宗ヲ弘ム同時ニ華嚴ニハ賢首清涼等ノ師アリ天台宗ニハ玄朗湛然等ノ師アリ念佛門ニハ善導懷感等ノ師アリテ上天子ヨリ下庶民ニ至ルマデ佛教ヲ崇信セザルモノ無シ是ニ至テ佛法全ク具ハリ盛大ヲ極ムト云フベシ」

諺ニ曰ク沙羅雙樹ノ花ノ色盛者必衰ノ理ヲ顯ハスト噫々宜ナル哉宜ナル哉此時ニ當テ天下ノ僧侶勢ヲ恃ンテ復タ事ヲ事トセズ外ハ以テ堂宇ヲ華美ニシ内ハ以テ解行ヲ

佛 教 之 弘 布

勤メズ只々虛飾ニ弱レ奢移ニ沈ミシカバ遂ニ韓愈ノ佛骨表ヲ始メ李訓ノ建白ニ依テ朝廷ノ内道場ヲ廢止スル等佛教ヲ攘斥シ釋氏ヲ毀捨セントスルノ徒四方ニ起リ儒書道教ハ日ヲ逐フテ盛ニ佛教ハ日日ニ衰滅ス唐ノ十五代文宗ノ大和元年ニ三教(儒道佛)ノ談論ヲセシメシ時無學文盲ノ僧侶如何デコレニ堪ユルヲ得ン實ニ佛者ノ落墜殆ンド之ヲ言フニ忍ビザルナリ宗密禪師コノ景況ヲ見ルニ忍ビズ原人論ヲ著シテ儒道ノ迷心ヲ攘ラヒ以テ一乘真源ノ理ニ皈セシメ又其根ヲ鋤除セシメザルニ至レリ噫々油斷ハ大敵是レ全ク僧侶ノ油斷ヨリ此災害ヲ來セシモノニシテ外ヨリ致スニ非ズ古歌

ニ「外カラハ手モアテラレヌ要害ヲ内カラ破ル栗ノイカ、ナ」ト詠ゼシモ此意ナラン噫々……………進ンデ日本ノ佛法傳來歷世興廢ノ大畧ヲ説カントス

人皇三十代欽明天皇ノ十三年壬申十月百濟國ノ聖明王ヨリ佛像經卷ヲ獻ジ上表シテ佛ノ功德ヲ稱ス帝群臣ヲ會シテ之レヲ議ス蘇我ノ大臣稻目ノ宿禰受テ之レヲ禮セン

「ヲ請フ物部ノ大連尾與中臣鎌子共ニ奏ノ曰ク我國宗朝百神ヲ祀ル自ラ常典アリ別ニ蕃神ヲ禮セハ必ズ譴怒アラント議論一決シ難シ帝乃チ情願ノ人ニ付クベシト詔シ

佛 教 之 弘 布

遂ニ稻目ニ賜フ大臣跪ヒテ之ヲ受ケ大ヒニ悦ビ小墾田ノ家ニ安置シ向原ノ家ヲ淨メテ寺トナシ禮拜供養ヲ勤メタリ(此レ即チ我ガ國ノ寺ノ濫觴ナリ)爾來經論次第ニ傳來シ聖德太子大ニ佛教ヲ弘通セリ三十七代孝德天皇白雉四年沙門道昭入唐シテ玄奘三藏ニ謁シ瑜伽唯識等ノ法門ヲ傳ヘ四十四代元正天皇靈龜二年玄昉入唐シテ法相三論ヲ將來シ五十四代桓武天皇延暦二十三年ノ夏五月空海弘法大師遣唐使越前ノ刺史藤ノ賀能ノ船ニ乘テ入唐シ青龍寺ノ慧果阿闍梨ニ就テ密教真言宗ヲ傳フ同年秋七月叡山ノ開祖傳教大師最澄ハ遣唐使菅清公ニ從ツテ入唐シ荆溪大師ノ上足智者大師七世ノ法孫道邃和尚ニ謁シテ天台一心三觀ノ法ヲ傳來セリ是ニ於テ諸家ノ法門大ヒニ具ハリ經論備具シテ四海ノ内皆佛教ヲ崇信セリ其后八十代高倉天皇ノ承安五年圓光大師念佛宗ヲ開キ專念ノ法門ヲ弘ム而シテ叡山ニ傳來セシ圓頓菩薩戒ヲ寂空上人ニ稟ケ遂ヒニ三朝ノ天子御授戒アリ一天四海ノ戒師トナリ大ニ佛教ヲ宣揚セリ續ヒテ教外別傳南天達磨ノ禪門ヲ傳來シ日蓮眞宗ノ如キ次第ニ興リテ四海ノ内皆佛教ヲ奉戴セサル者無シ此時代ヲ支那ニ擬レバ梁陳隋唐ノ間佛教大ニ興リシニ其事跡ヲ同フス而シテ鎌倉北條ヲ經テ

佛 教 之 弘 布

舊幕府徳川氏ノ大政ヲ握ルニ至テ滋々佛教ヲ崇メ諸宗ノ本山ニ寺録ヲ附シ公議普請ト稱シテ金殿玉堂宇内ニ櫛比シ僧官ヲ賜リテ四民ノ上ニ坐セシメ親王皇族雲上ノ紳縉等入道出家シテ各宗ノ法門ヲ傳習セリ其ノ盛大ナルコト言ニ述ベ盡シ難シ物盛ナレハ必ズ衰ルハ理數ノ常僧侶少シク油斷ノ心ヲ生ジ解行ノ道ニ懈リ只門戸ヲ張リ外相ヲ飾リ内ニ學徳無ク外ニ布教ノ勤ヲナサズ日夜徒食メ空ク光陰ヲ費ヤシ諸宗數萬ノ僧侶天下ノ遊民ノ如クナリシカハ廢佛ノ徒四方ニ起テ延享年間ニ富永仲基ト云フ人出後語錄ト云ヘル書ヲ著シ寛政ノ頃ニ至テ竹山中井積善草茅危言ヲ著テ佛教ヲ毀リ嘉永二年ニ平田篤胤出定笑語ヲ作テ佛教ヲ虛誕ナリト謗リ松苗ハ國史略等ノ中ニ往々佛教ヲ毀リ山陽頼襄ハ日本政記ニ佛法ヲ評破ス然レモ外護ノ大善知識徳川氏ノ威權ニ依テ佛法ノ一毛端ヲモ動カヌコト克ハズ是レ支那ニ在テ韓退之ガ佛骨ノ表ヲ上テ佛教ヲ壞斥セントセシ事跡ニ類同セリ徳川氏大政返上維新以來合併大教院設置ノ際ニ當テ講究試驗ノ始リシハ恰モ支那ノ文宗ノ時秘書監ノ白居易安國寺ノ引賀大師上清宮ノ道士楊弘元等ニ詔有テ麟徳殿ニ於テ三教ノ談論アリシニ其事跡ヲ同ス爾來僧

侶ハ唯マ其儀式ヲ整ルノミニテ殆ンド無佛世界ト云フモ不可ナキナリ是ニ至テ諸宗ノ碩徳有志ノ面々慷慨忿激シテ各宗學校ヲ創草シ復古ノ策ヲ建テ正法維持ノ基礎ヲ固フセント漸ク其運ビニ及ビシナリ回想スレバ支那ト日本ト時ヲ異ニシ處ヲ別ニスト雖凡而モ其興廢事跡ノ形勢ハ一轍ヲナス深ク鑑ミザルベケンヤ

佛教到來前之宗教

佛教ノ蔓衍セザル時代ノ宗教ヲ考究スルニハ固ヨリ我國最舊ノ歴史ヲ採用スルヲ要スルガ此様ノ歴史ハ誠ニ存在スルカ若シ存在スレバ取テ以テ確實ナリト認ムベキカハ須ク辨明セザルベカラザルナリト雖凡暫ク之ヲ他日ニ譲リ今諸書ニ由リ是非斟酌取捨シテ以テ聊カ其要ヲ叙セントス

抑モ我が國上古ノ政体ハ一種ノ神教政体ニシテ世襲ノ天皇カ政治上及ビ宗教上ノ主宰トシテ祭政一致ノ政ヲ布カセラレタリ即チ天皇ハ天照大神ヨリ傳ハレル三種ノ神器ヲ正殿ニ祭リ事ゴトニ神意ヲ請ヒテ之ヲ臣民ニ告ケ以テ天下ヲ治メ給ヘリ法律ハ未タ確然ト定マラズ主ニ神前ニ湯ヲ探ラシムル等ノコトヲ以テ其罪ヲ質シ或ハ之ヲ除

去ノ刑ニ處シ或ハ之ヲ購贖ノ罰ニ處スルヲ常トシ重大ノ罪アル者ハ之ヲ殺シタリ凡人間精神ノ作用ハ有形界ノ上ニノミ働カズシテ無形界即チ幽冥界ノ上ニマデ其力ヲ及ボスモノアリ是レ人間カ文野ニ拘ハラズ神ト云フ全能力者アリトノ想像ヲ記シ宗教心ヲ發スル所以ナリ然レハ我國人モ古來前陳ノ如ク神ノ存在ヲ信ジ痛ク之レヲ畏敬シ居タリシガ如シ其所謂(ミカ)ト云フ語ハ(ビクシ)即チ靈ノ約言ニシテ人ニ異リタル不可思議ノ性質ヲ具備セリトノ意味ヲ含蓄セルモノナリト云フ此神ニ二種アリ第一種ハ形体モ性質モ共ニ靈ナル者ニシテ第二種ハ形体ハ靈ナラズシテ性質ノミ靈ナルモノナリ大功ノ人物靈用ノ禽獸ハ其第二種ニ屬ス而シテ此等ノ神ノ中ニハ善神アリ惡神アリ善神ハ人ニ福ヲ降シ惡神ハ人ニ禍ヲ降ス者ナリ故ニ古代日本人ノ心裡ニハ畏神ノ心ト愛神ノ心トヲ具ヘ居タリ中ニ就テモ畏神ノ心深カリシコトハ鬼神ノ體崇ヲ畏レ怨靈ノ禍害ヲ慮リ祭祀ヲ鄭重ニスルヲ見テ知ルベシ而シテ此等祭祀ノ方法等ヲ示ス者コレ後世ノ所謂神道ナリ神道ハ佛法ノ如ク因果應報ヲ説カズ世ノ盛衰人ノ禍福ハ神意ノ支配スル所ナリト説ケリ其ノ崇奉スル所ノ神ハ八百萬ノ神ナリキ

上古祭祀ノ方法ハ丘岡樹木ノ繁茂セル所ニ根堀ノ榊ヲ立テ燎ヲ燒キ其榊ノ枝ニ玉鏡
劍幣帛ヲ掛ケ禽獸魚介蔬菜等ヲ榊ノ上ニ置キ神樂ヲ奏シテ之ヲ祭ルナリ決シテ後世
ノ如ク神社若クハ神壇ヲ設ケ之ヲ祭ルコトナシ社ハ本ト家代ノ義ニシテ何處ニテモ
神ノ寄ルベキ地ヲ云フナレバ後世ノ如ク神殿ヲ稱シタル語ニアラズ是レ古代日本人
ノ社ヲ設ケザリシ所以ナリ而シテ神ハ幽冥界ノ者ナリト信ジ居タルガ故ニ之ヲ祭ル
ニハ皆夜ヲ以テシタリ

附加

彼ノ印度人ノ如ク猛獸毒蛇ヲ神トシテ崇ムルハ上古日本ニモ有リシ事ナリ狼ヲお
はかみト日本語ニテ云フハ大嚙ノ意ニアラズシテ大靈又ハ大神ノ意ナリ蛇ヲへび
ト云フハ靈ノ意ナリ上古ノ日本人ガ蛇ヲ殺シ敢ヘザリシハ稻田姬ノ話ニテモ明白
ナリ

古記傳に云ふ凡て迦微とは古御典等に見わたる天地の諸の神たちを始めて其を祀
れる社に坐御靈をも申し又人はさらにも云ず鳥獸本草のたぐひ海山など其餘何に

佛教到來之前

まれ尋常ならずすべれたる徳のありて可畏き物を迦微とは云なり(すべれたるとは尊きこととふとの優れたるのみを云に非ず悪きもの奇しきものふともよにすべれて可畏きをば神といふなりさて人の中の神は先かけまくもかしこき天皇は御世くみふ神に坐こと申すも更ふり其は遠つ神とも申して人とは遠に遠く尊く可畏く坐ますが故ありかくて次くにも神ある人古も今もあることあり又天下にうけがりてこゝろあらぬ一國一里一家の内につきてもほどくく神ある人あるぞがしさて神代の神たちも多くは其代の人皆神あり
故に神代は云ふり又人ならぬ物には雷は常に鳴神鳴ふと云へばさらにもいはず龍樹靈狐などのたぐひもすべれてあやしき物にて可畏ければ神あり木靈とは俗にいはいゆる天狗にて漢籍に魑魅など云たぐひの物ぞ書祀祈明卷に見えたる天狗は異物なり又源氏物語などに天狗にたまさ云るとあれば天狗とは別あるがとよく聞ゆめれど今は當時世に天狗ともいひ木靈とも云るを何となくつらね云るにて實は一つ物なり又今俗にこたまと云物は古山彦と云りこれらには此に要ふきこといふもふれども木靈の因に云のみふり又虎をも狼をも神と云ること書記萬葉ふと見え又桃子に意富加牟那美命と云名を賜ひ御頸玉を御倉板奉神と申せしむり又磐根木株神のよく言語したいひなきも皆神ありさて又海山などを神と云ることも多しうは其御靈の神抑迦微は如此くを云に非ずして直に其海をも山をもさして云り此らもいとかしこき物あるがゆゑなり)
種々にて貴きもあり賤きもあり強きもあり弱きもあり善きもあり悪きもありて心も行もそのさまくく隨てとりくくにしあれば(貴き賤きにも段々多くして最賤き神の中にはと極きわざなすことはいかにかく巧なる人もかけて及ぶべきに非ずまことに神あれども常に狗などにすら制せらるるばかりの微き獸あるなやされと然るだぐひのいさ賤き神のうへをのみ見ていかある神といへども理を以て向ふには可畏きこと無しと思ふは高きいやしき威)大かた一むきに定めては論ひがたき物になむありける(然るを世人の外國にいはいゆる佛菩薩聖人などと同じたぐひの物のごこく心得て當然き理かへるしわざのみ多く又善神ならむからに其ほどにいたがひては正しき理のまにのみほあらぬ事あるべくまたふれて怒り坐る時などは荒びたまふ事あり惡しき神も悦び心ふこみて物幸かふること絶て無きにいふ)

るへし又人は然はは知らねどもうのーわそのさしあたりては懸しと思はるゝ事もまことには古く善しと思はるゝ事もまことには凶き理のあるまじきもあるべし凡て人の智は限ありてまことこの理ははしらぬものおればかにかに神のうけはみだりに測)ト眞ニ然リ古代ノ人民ハ鬼神ニ關シテ實ニ此ノ如キ思想ヲ懷キシナルベシ

人皇十五代應神天皇ノ十五年百濟ノ人阿直岐渡來シ漢學ヲ持テ來リシ以來我國人ノ智識大ニ進ミ道德心ノ養成セラレタルコトハ仁徳天皇ト稚郎子皇太子トノ推讓顯宗天皇ト仁賢天皇トノ讓位ヲ見テモ疑フベカラズ然リト雖モ直接ニ儒教ガ神教ニ與ヘタル影響ハ一モ見ルベキ者ナシ是レ蓋シ儒教ハ藐乎タル天ト云フ者ヲ信ジ祖先ノ祭祀ヲ重ヌル者ニシテ我國固有ノ宗教ト多ク異ナル所ナキガ故ナラム

基督教

荀子曰ク欲蔽ヲ爲シ遠蔽ヲ爲シ博蔽ヲ爲シ淺蔽ヲ爲ス古蔽ヲ爲シ今蔽ヲ爲ス凡ソ万物異レバ則チ相蔽ヲ爲サマルコト莫シ余ハ常ニ此ノ語ヲ誦スル毎ニ未ダ嘗テ慨歎セズンバアラザルナリ嗚呼恐ルベキハコノ蔽嗚呼憂フベキハコノ蔽人ノ世ニ在ル大概チ其逢フ所ヲ以テ善ト爲シ信ト爲シ以テ其他ヲ忘ル蓋シ古今ノ通患ナリ故ニ治ニ

基督教

居テハ亂ヲ忘レ安ケレバ則チ危キヲ忘レ漢學ヲ究ムル者ハ多ク孔孟ヲ拜シ洋學ヲ修ムル者ハ多ク洋說ヲ信奉スルコト恰モ齊桓ノ管仲ニ於ケル如ク一ニモ則チ西洋以爲ラシ天地ノ至理至道ト國體ノ如何時勢ノ如何民智ノ如何ヲ問ハス猥リニ我ヲ捨テ、彼ヲ取り國俗ヲシテ壞敗セシメ道德月ニ微ナルニ至ラントス噫……余ハ已ニ佛耶兩教ノ起原傳來ノ次第ヲ略述シ終レリ今ヤ進ンデ兩教ノ教理ヲ概論シ後チ其ノ優劣ヲ論セントス而シテコレガ善惡ヲ決スルニ當リ或ハ余ヲ指シテ同ジク偏頗ノ中ニ遊泳スル所ノモノトナスモノアラン列子ニ曰ク天地ニ全功無シ聖人ニ全能ナシ萬物ニモ全用ナシ故ニ天ノ職ハ生覆地ノ職ハ形載聖ノ職ハ教化物ノ職ハ所宜生覆スル者ハ形載スル能ハズ形載スルモノハ教化スル能ハズ教化スル者ハ所宜ニ違フ能ハズ所宜ハ位スル所ヲ出デズ故ニ天モ短ナル所有リ地モ長ナル所有リ聖人モ否カラザル所有リ物モ通ズル所有リト一利ノ在ル所一害必ズコレニ從フ東ニ面スルモノ必ズ西ニ背カザルベカラズ前ニ進ム者ハ必ズ後ヘニ遠ザカラザルベカラズ全用全功全能ナキ安ンカ怪シムニ足ンヤ故ニ余ハ佛敎ノミ獨リ必ズ全用全功全能ニシテ基

基 督 教

教ハ必ズシモ皆ナコレナシト云ハズ沙門社會中余ヲ目シテ佛教ノ實義ヲ知ラズトナ
 スモノモアラン基督教信徒中余ヲ呼ンテ妄言者トナスモノモアラン其他左右雜多ノ評
 ヲ下スモノ多カラシ然レドモ余ハ毫モ恐レザルナリ唯ダ余ハ余ノ能ヒ得ベキ丈ケ力
 ノ及ブベキ限り勉メテ公平ニ極端ニ走ラズ善キ者ヲ善シトシ惡キ者ヲ惡シトシ取
 捨愛憎スルヲ好マザルナリ耶穌教ト云フモ一箇ノ教豈ニ輕々論ジ去ルベキモノナラ
 シヤ見ヨ彼等ノ勢力氣熾益々盛ナラントスルヲヤ余近世發覺ノ破邪論(此處ニハ耶穌教
 ナ排スルモノナ
 フ)ノ類ヲ見ルニ其確實丁寧識者ノ見テ當ナリトシ着實讀ムモノヲシテ感服ノ念ヲ
 起サシムルモノ實ニ了了ノミ自カラ大菩薩ト稱シ而モ大家ノ一人ニアル人ノ著作ニ
 係ルニ教優劣ナル書ノ如キ實ニ余ハ之ヲ評スルニ忍ビザルナリ強ヒテ之ヲ評センカ
 極端ノ極我儘至極ノ議論ト云フベシ此ノ如クニシテ基督教ノ徒豈ニ之ヲ笑ハザランヤ
 彼等ハ必ズ云ハン當世自カラ大菩薩ト稱スル人猶ホ且ツ此ノ如キノ論ヲ作ス他ハ推
 シテ知ルベキナリト延テ以テ基督教擴張ノ補助トナサントス(勿論基督教ノ徒ニ於テモ此ノ如キ
 極端ノ論ヲナス人其教ニ乏シカ
 ズ)嗚呼慎マザルベケンヤ余ハ勉メテ公平ノ議論ヲナシ勉メテ解シ易キ語ヲ用非佛

基 督 教

耶兩教ヲ辨明シ以テ識者ノ意見ヲ叩カントス故ニ文中問々俗語談話ヲ挿ムコトアラン
 乞フ讀者余ノ意ノ在ル所ヲ察セヨ而シテ余ハ先ヅ基督教トハ如何ナルモノナルカラ
 論述シ然ル后チ佛教ヲ説カントスソハ讀者ヲシテ佛教ノ如何ナルモノナルヤヲ解ス
 ル以前既ニ基督教ヲ了解シ置クハ余ノ優劣ヲ論斷セザルニ先ダチ諸君自身ニ深淺ヲ測
 知セラルノ便利アレバナリ
 抑基督ハ何ヲ以テ宗教ノ基礎トナシ如何ナル方術ヲ用非テ布教セシカ是レ探尋得知
 セザルベカラザルコトニシテ亦之ヲ知ラザレバ基督教ヲ解スル能ハザルナリ彼レクリス
 トハ唯一絶對ノ神アリテ宇宙萬物ヲ創造セシモノニシテ吾々人間ハ皆ナコノ神ヲ信
 ゼザルベカラズト之レヲ其基礎トナシ吾々人間ハ罪アルモノナレバ之レヲ救濟セザ
 ルベカラズト云ヒ而シテ自カラ救世主ニシテ神子ナリト稱シ以テ布教ヲ始メタリ然
 ラハ神ノ存在ニ就テ證ヲ立テ神アルコトヲ信ゼシメザルベカラザル是レ第一ノ根據ナ
 リ今問答ヲ以テ之レヲ説示セン

問 神トハ何ゾ

答 唯一ノ活ケル眞神ナルエホバハ天地ノ造主ナル至大ノ主宰即チ究リナキ智ヲ
靈ナルコト其清キヨリ出ヅル榮光ハ言語ノ言ヒ盡スベキニアラズ全力ヲ盡シテ
尊ミ愛シ又依頼スベキモノナリ

問 神ノ造主ナルコトハ何ニ由テ證スルヤ

答 今世上万般ノ事情ヲ觀察スルニ其元素ハ人力ノ作り能ハザルト云ハズシテ明
カナラン而シテ之レアル以上ハ如何ニシテ存在スルカヲ知ラザルベカラズ
誰レカ之ヲ究ムルモノアラン之レ即チ眞神ノ作出セシコト知ルベキナリ

凡單簡ニ辨明セバ右ノ如クニシテ人ノ始源万物ノ元素之レヲ其本源ニ遡ツテ探究セ
ハ如何ニ學術進歩スト雖モ到底之レヲ知ルベキ由ナシ此ニ於テ孔子ハ總テ天ニ皈シ
老子ハ虛無ノ大道ト云ヒ更ニ之レヲ知ルベキナシ何人ト雖モ單ニ之レヲ考フルハ
何か一種吾々人類ニ異ナリタル非常ノ有力者アリテ之ヲ創立セシヤニ考フルハ實ニ
無理ナキコトニシテ自然宗教心ヲ發シコレガ顯示ヲ與フルモノ籍テ以テ一教ヲ建立
シ各此ノ絶對者ニ名目ヲ附スル亦タ然ルベキコト云フベシ而シテクリストハ此ノ唯

基 督 教

一ノ神ヲエホバト稱シ先ヅ衆人ヲ神アルノ觀念ヲ起サシメ然ル后チ之レヲ根據ト
シテ救濟セントセシハ尤モ至極ノ事ト云フベキナリ

基 督 教

次ニ吾人ヲシテ罪アルコトヲ自認セシメ然ル后チ悔悟ノ途ニ導キ人道ヲ維持セントス
ルハ實ニ方法先ツ當ヲ得タルモノナリト云フベシ吾人互ヒニ良心ナキモノアラジ而
シテ其ノ爲ス所云フ所知ラズシテ不善ヲナスコトアリ知テ而シテ之ヲナスコトアリ知不
知ヲ論セス吾人ノ言行大概チ過失ナキハナシ西諺ニ曰ク良心ハ公平ノ裁應ナリト噫
人誰レカ自カラ毫モ過失ナシトスルモノアランヤ是レ自カラ罪アルノ觀念ヲ生ズル
所以ニシテ自然ノ勢ヒト云フベキナリ然リ而シテ有形ノ罪ハコレヲ法律ノ制裁ニ附ス
ベシト雖モ無形ノ罪ニ至テハ誰カコレガ裁判ヲナスモノアラン又々例ヘ有形ノ罪ト
雖モ一天万乘ノ至尊ノ人誰レカコレヲ制セントスルカコレ實ニ死后賞罰アルコトヲ説
キ欲心ヲ抑ヘザルヲ得ザルコトニシテ又々人倫ノ大道ヲ匡正スルノ一助ナリ
凡人恐ル、所ノ者ナクンハ欲心增長スルモノナリ其恐ル、所ノ者ハ自己ニ優ラザル
ベカラズ而シテ其最タルモノハ即チ絶對的神ナリコト故ニ神ヲ恐レ神ヲ信シ神ヲ敬シ

基 督 教

神ニ從へ自身ノ罪ヲ悔へ改メ邪ヲ捨テ、正ニ就キ惡ヲ除テ善ヲ求ムル亦々然ルベキ
 等ニシテ乃チ宗教建立ノ基礎トナリシナリ而シテ彼クリスト自カラ神子ナリト稱
 シ三位一体ノ說ヲ唱へズンバ又タ人民ヲ導クノ途ナシ之ヲ以テ神ノ存在ヲ知ラシム
 ルト共ニ自カラ神子ナルヲ證ス曰ク神ニ父ト子ト清キ靈トノ三ノ區別アルヲ又其完
 全ナル神ナルヲハ各々均シクシテ異ルヲナク大ナル贈ノヲニ付テ其行爲異ルモ互ニ
 相反スルヲナキ職ヲ行フ (ヨハネ第一書四章十、われら神を愛するに非らず神われらを愛し我儕の罪の
 爲に其子を遣して挽回の祭物とせり是すはち愛なり 同十四 父に其子
 を遣して世の救主と爲り我儕すでに之を見たり今今の證を作さばり 同十六 我儕の爲に神の有る愛を我儕すでに
 知りて信ず神は即ち愛あり凡る愛に在る者は神に在り神また彼に居 同二十三 この誠は即ち我儕神の子イ
 エスキリストの名を信じ彼の我儕に命ぜし如く互に相愛するべき也 馬太傳十章三十二 然ば凡る人の前に我を
 顯さ言ん者を我も亦天に在す我父の前に之を顯さ言ん 同三十三 人の前に我を顯さ言ん者を我も亦天に在す我父
 の前に之を顯さ言ん) ト云フガ如キ即チ之ヲ知ルニ足ル故ニ彼ノ徒ハ先ヅ神ノ存在ヲ自得セシ
 メ次ニ吾人ノ罪アルヲ認メシメ聖書ハ神ノ言詞ナレバ苟モ神ヲ信ズル以上ハ聖書
 ヲ信ゼザルベカラズト云ヒ且ツ聖書ハ神ノ法則ニシテ毫モ伴リナシトセバ乃チクリ
 ストノ神子ナルヲハ喋々セズシテ之ヲ證スニ足ル

問 聖書ノ神則ナルヲハ何ニ由テ之ヲ證スルヤ

基 督 教

答 聖書ハ清キ靈ノ感化ヲ受タル人々ノ記シタルモノニシテ天啓ノ完全ナル至宝
 ナリ又聖書ノ始創者ハ神ニシテ其目的ハ救且ツ其記載シタル事項ハ純然タル
 真理ナリ又聖書ハ神ノ余等ヲ審判ク所ノ道理ヲ顯ハスモノナリコノ故ニ聖書
 ハ世ノ終リニ至ルマデ基督信徒ノ合同一致ヲ繋グ真ノ中心ナリ又人間ノ所爲
 信仰ノ簡條及ビ意思ヲ試ミルニ無上ノ規則ナリ
 凡ソ聖經諸書ニ教ユルトコロ或ハ詳畧ノ異顯隱ノ差アリトイヘ其神ヲ論ジ
 倫常ヲ説キ教道ノ要旨ヲ剛明スルニ至リテハ皆一轍ニシテ矛盾スル所ナシ之
 ヲ著ハセシモノ亦一人ニ非ス毎卷大抵其人ヲ異ニシ且新舊約ノ別アレ其要ス
 ルニ同物ノ漸次發達スルニ過ギザルナリ此ノ如ク記者及ビ時代ヲ異ニスト雖
 凡皆ナ神ノ意ヲ受ケテ之ヲ記セシモノナルヲ以テ一人ノ手ニナリシ如シ是レ
 安ソ神則ナラザルヲ得ン

其他種々ノ説明ヲ設ケ之ヲ證スト雖凡要スル所以上ノ如シ一言以テ基督教ヲ云ヘハ神
 ヲ Personal God (人ノ様) 有心的ニ見做シクリストハ神子ニシテ救主ナリト信ジ聖書ヲ

基 督 教

以テ一ケノ教則トナシ以テ吾人ノ罪惡ヲ匡正スルニアルナリ而シテ世ノ文明ニ赴キ
 學理愈々進化スルニ從ヒ遂ニユニテリアント稱スル一種ノ基督教顯出スルニ至レリ
 抑モ ^{ユニテリアン} Unitarian ハ同シク唯一絶対ノ神ヲ以テ宇宙萬物ヲ主宰スルモノトテスモクリス
 ト神子ニアラズ只ダ吾々人類中拔群俊才ノモノナリト云ヒ聖書モ從ツテ盡ク信ズベ
 キモノニアラズ亦タ信セラレズト云ヒ感情的ヨリハ寧ロ理論的ニ信仰ヲ導ケリ今名
 目ノ上ヨリユニテリアンヲ吟味セバ ^{ユニ} Deity ナル語ハ唯一不二ノ意ニシテ ^{Deity} Deity ハ神ト
 云フコトナリ該教ハ三神一致ヲ云ハズ單ニ唯一ノ絕對者ヲ認ムルノミコノ故ニユニ
 テリアンニ對シテ他ノ基督教ハ之ヲ三神教ト云フモ不可ナキガ如シ
 ユニテリアン教徒曰ク古昔人民ノ愚昧ナリシ時神ナルモノハ尋常人間ヨリ少ナク
 モ二三倍ノカヲ有スルモノナラント思ヒ居レリ而シテ彼ノクリストハ藉テ以テ三神
 一致ノ說ヲ立テタルナリ然レヒクリストノミ豈ニ獨リ神子ノミナランヤ吾人モ同ジ
 ク神子ナリ彼レクリストハ一豪傑ト稱スルヲ得ルモ豈ニ神ナランヤ又タ聖書中更甦
 コト及ビ彼ガ磔殺ニ處セラレシコトハ救ノ爲メト云フベカラズ此等ノ事蹟ハ例ヘコ

基 督 教

レアリシニモセヨ其ノ說タル妄且ツ強ト云フベシ今日學理進化ノ際ニ當リ誰レカ之
 チ許スモノアラン是レ却テ神ヲ認フルモノニシテ基督教ノ真意ニアラズト是レニ依テ
 之ヲ觀レバ絕對唯一ノ神ヲ認ムルモ三位一体ノ說ハ之ヲ執ラザルモノノ如シ單ニ基
 教ト云フ時ハ恰モ一條ノ鉄棒ノ如ク更ラニ枝葉ナキガ如クナレヒ基督教亦タ教派アリ
 教會亦タ各々其ノ式ヲ異ニス然レヒ大同小異皆ナ三位一体ヲ以テ教礎トス獨リユニ
 テリアンハ然ラズ稍々宇宙神教ニ似タリ之ヲ要スルニ凡テノ基督教ハ先ツ唯一絶対ノ
 神ヲ立テ然ル后チ吾々人數ノ行路ヲ探尋スルモノニシテ暫ラク論理ヲ借ラハ演繹法
 ニ教法ヲ説クモノナリト云フモ大過ナキガ如シ今以上論シ來ル所ヲ一括シ基督教ノ組
 織ヲ單記シテ以テ本章ヲ終ラントス

第一 眞神ノ存在

第二 宇宙萬物凡テコノ神ノ創造セシコト

第三 吾人ノ多クハ罪過アルモノナレバ神ヲ信ジテ悔悟セザレバ靈魂永遠神ノ免

シヲ得ズシテ地獄ニ陥ルコト

第四 神ハ愛ナレバ吾人ヲ救ハンガ爲メ其子イエス、キリストヲ降世セシコト
 第五 聖書ハ神則ナレバコレニ依テ吾人ノ罪ヲ悔悟スルコト
 第六 三神ノ働キ一致ナルコト

(以上三神教)

ユニテリアンハ唯一絶對者ヲ認ムト雖モ三神一致及ビクリストノ奇蹟等ハ之ヲ信
 ゼズト云フ

ユニテリアンハ宇宙萬象ノ大体ヲ總管スル者ヲ第一原因ト名ケ又ク宇宙力ト稱シ
 又ハ上帝ト云フト云ヘリ

ユニテリアンハ何宗ヲ問ハズ善説ハ皆之ヲ取ルト云ヘリ

ユニテリアンハモセス及ビヤソノ經典ハ之ヲ固信セズ又一定ノ信文ヲ設ケズト云
 ヘリ

ユニテリアンハ他ニ比類ナキ真理ノ宗教ナリト自稱セリ

詳細些微ノコトニ至ツテハ請フ讀者自檢セヨ

基

督

教

附加

西曆一千八百八十七年九月合衆國ボストン府(米國ユニテリアン同盟會)ヨリナツプ氏ヲ日本ニ派
 遣シユニテリアン教ヲ渡來セリコレ實ニ該教ノ我が國ニ入リシ始メナリ

佛教

佛

教

世人佛教ノ一部ヲ窺ヒ或ハ爺嫗ノ談義卑近極リナシト笑ヒ或ハ高遠ニシテ哲理ノ學
 ナリト驕リ更ニ全体ヲ通知セザルモノ往々コレアリ……夫レ海水ハ深遠ナリト雖其
 ノ淺瀬ニハ則チ小童モ裳ヲ裳ケテ立ツト容易ナリ其深遠ニハ則チ長鯨モ能ク鱗ヲ縱
 ニシテ游グニ餘リアリ佛教モ又タ斯ノ如シ其教理深遠ナリト雖因縁譬喩ノ如キハ簡
 易淺近ニシテ婦女モ其意ヲ解スルヲ得然レモ哲理深奥ノ妙處ニ至ツテハ鴻儒ト雖
 窺ヒ測ルヲ難シ是ニ於テカ知者ハ其淺近ナルモノヲ輕忽ニシテ之ヲ顧ミズ愚者ハ其
 深遠ナルモノヲ忌ミ憚リテ之ヲ索メズ偶々來ツテ門ヲ叩クモ未ダ堂ニ昇ラズシテ去
 ル嗚呼悲カナ真道ヲ求メテ室ニ入ル者ハ殆ンド稀レナリト雖余今暫ラク問答ヲ用テ
 一條ノ談話ヲ作シ以テ手輕ニ佛教ヲ説明シ聊カ堂ニ昇ルノ階子ニ代ヘントス人アリ

或ル禪師ヲ訪ヒ問答ヲ始ム

問 佛法ハ結局何が目的デゴザル

答 成佛ガ目的デゴザイマス

問 佛ト云フノハ一体何物デゴザル

答 佛ト云フノハ天竺ノ詞デ佛陀ト云フノヲ支那デ譯セバ覺トナリ日本語ニスレ

バサトリト申スコトニ成リマス

問 然ラバサトリト云フ事ハ如何ナルコトデゴザル

答 吾々人間ガ持前ノ迷ノ除ケタノガサトリテ其サトリヲ開ク者ヲ佛ト申スノデ

ゴザイマス

問 其迷トハ何物デゴザル

答 オ互ヒニ此ノ身ガアレハ心ト云フ者モアル天地万物ガアリ日月星辰ガアリ雨

露風雪ガアリ山川草木ガアル我身ニ眼レバ其差万別ノ色ガ見エル我身ニ耳ア

レハ種々雑多ナ聲ガ聞エル鼻モ舌モ其ノ通リデ聲ヲ聞キ色ヲ見レバ善イノ惡

佛

教

イノ憎イノ可愛ノト云フ事ガ起ル是レハ諸家ノ哲學デモ皆ナ此關係ヲ論ジテ

天地万物ノ眞理ヲ見出スガ目的デアルトカ申スコトデゴザイマスガ我佛教モ全

ク其趣意デ我心ト天地万物ノ間カラ起ル關係ヲ明ラメテ結局世界ノ眞性質相

ヲ見出スデゴザイマスガ如何セン我アレバ彼アリト申ス様ニ物事ガ皆ナニツ

宛ナランデ居リマスカラ迷ト申スコトガ起ルモン其物事ガ唯一ツデ外ニ相手

ガナイトキニハ迷ト云フコトノ起リ様ハ無イ例ヘテ見マスレバ今コノ茶碗一

ツヲ出シテドナラガ好イト思召スカト御問ヒ申シテモ恐ラクバ誰レモコレニ

答フル人ハ御座イマスマイ元來一ツノ茶碗ニハドナラト云フ詞モ立タヌ筈デ

ゴザイマスカラ好イモ惡イモナイカラデゴザイマセウ然ルニ更ニ此水瓶ヲ出

シテコノ茶碗トドナラガ深フ御ザイマセウト問ヘバソレハ水瓶ノ方ガ深イト

カ茶碗モ存外ニ深イ様ダトカ直ニ惑ガ起ルコレガソレ迷デゴザイマスイカニ

セン我アリ他アリ長イモアレハ短イモアリ浅イ深イ厚イ薄イ重イ輕イ古イ新

イト云フ様ニニツ宛ナランデ居ルカラ是非得失善惡邪正憎イ可愛イ惜イ欲イ

ト云フ妄想が起ルモシコレガ二ツ宛ナラシメ居ラズ唯一ツデ有タナラ治亂モ
動靜モナイ譯ダ

問 ソレデハ何トカシテ一ツニ纏メル工夫ハゴザラヌカ

答 昔カラ聖人君子トモ言ハル、人達ガミナコレヲ一ツニシル工夫ヲ廻ラシタ所

デ支那ノ孔子ハ天地萬物ヲ大極ノ一ツニ決飯セラレ西洋ノ聖人耶穌基督ハ神
様ト云フ者ガ獨リ有ルト云テ唯一ツノ神ニ何モカモ纏メラレタ何レモ皆我々
ノ迷ノ種ヲ除イテ下サル、爲メニ苦心セラレタ所ハ有難イケレドモ萬物大極
ニ飯シテモ又獨一眞神ノ心次第ト信ジテモ未ダ我々ニ對シテ神様ト云フ有難
イ物ガ有ル上ハ矢張り我ト神ト二ツ並ンデ居ルニ違ヒナイ寧ッ其有難イ神様
モドコツイ片付テ仕舞フ工夫チシナケレバナラン、サーコ、ガ工夫ノシ所デ
ゴザイマス然ラバ佛教ノ目的ハドウデ有ルカト云フニ初ノ様子ハ何レモ同ジ
様デ唯天地萬物モ自己ノ身心モ唯一枚ニナルノデゴザイマスガ儲テソノ一枚
モ亦タ見ル所ナク聞ク所ナク遂ニ一枚ト云フ名モナイ所ニ到ルノガ佛ノサト

佛 教

佛

教

リデゴザイマス然ラバ其一枚ヲドコイ遣タカト云フニ立戻ツテ頭ヲ回ラシテ
見レバ天地世界ノ千差萬別ナル山ハ高ク水ハ長キ儘ニ直下平等一如ノ實相デ
アルト申スノガ佛教ノ見込デゴザイマス併カシソコマデ行クニハ何ニセン手
前ニ我ト云フ心ノ有ル限リハ彼ノ男ハ氣ニ入ラントカ氣ニ入タトカ此事ハ私
ガ好キダトカ嫌ヒダトカ云フ差別ノ考ガ起ルモシ我ト云フ心サヘ無クナレバ
他ト云フ者モナクナルニ依テ氣ニ入ルモ入ラントモ無イ筈ダガ我ト云フ心ノ有
ル限リハ設ヒ山ノ奥ヘ世ヲ避ケテモ己レ一人クラシテモ絶對無爲ト云フ境界
ニハ到ラレマセンソコデ釋迦如來ハ種々ニ工夫セラレテ此萬物ノ空寂ナル道
理ヲ悟ラレタノヲ法空ト申シ又此心ノ空寂ナル道理ヲ悟ラレタノヲ人空ト申
マス又ハ之ヲ人無我法無我トモ名ケマス儲此無我ノ道理ヲ學問ノ上カラ成程
ト呑込ノ附クダケノ事ハ謂エル因果ノ道理デ調べテ見レバ分ルコトハ誰レニ
モ分リマスカ之ヲ人々實地ニ行フテ萬物萬事ノ上ニ眞實自由ヲ得ルコトハ一
通りノコトデハアリマセヌ

問 併シ之ヲ實地ニ當テ候メテ修行スル法ガアリソウナモンデゴザル

答 左様、先ヅ人ノ智愚ニヨリテ聖道門淨土門ト云フニ通リノ立テ方ガゴザイマ
ス

問 ソレハ何ノコトデゴザル

答 聖道門トハ自ガ難行シテ佛ノ悟ヲ開ク方デ淨土門トハ他力易行デ佛ニナルコ
トガデキルト云フ方ガ一口ニ申サバ世間デ能ク申マス所ノ自力他力ノ二門デ
ゴザイマス今我國デ弘ツテ有ル諸宗ノ中デハ天台宗真言宗曹洞宗臨濟宗黃蘗
宗日蓮宗法相宗ハ聖道門デ淨土宗真宗時宗融通念佛宗ハ淨土門デゴザイマ
ス此中デ天台モ真言モ法相モソノ宗旨中ノ一部分デハ淨土門ヲ立テマスソコ
デ自カデ修行スル法ヲ釋迦如來ハ三通リニ立ラレタ第一ハ戒法ト申スノデ身
ヲ修メル規則第二ハ禪定ト申シテ心ヲ落附ケル仕方第三ハ慧學ト申シテ物事
ノ道理ヲ學理的デ考ヘルノデゴザイマス此三ツヲ三學ト申シテ佛教ヲ自力デ
學ブ者ハ是非コノ三學ニヨラナケレバナラン又ハ之ヲ廣ゲテ六波羅密トモ申

佛

教

佛

教

マスコノ三學ヲ法ノ如ク修行スレバ此身此儘佛陀ノ心ヲ開クヲガデキルお釋
迦様モ人ニ違ヒナイ我々モ人デアリマスカラお釋迦様ト同シ境界ニ到ラレナ
イト云フ道理ガナイ、ソレデスカラ佛教ノ方デハ佛モ人ナリ、我モ人ナリ天然
ノ釋迦モナケレバ自然ノ彌勒モナイ皆必ラズ原因結果ノ規則ニ依テ我々人間
ノ智徳ノ極度ニ至ツタノヲ佛ト云フノデ人間ノ上ニ神モナケレバ鬼モナイ設
イ有テモ人間ヨリ尊イモノデハナイ若シ初カラ我々人間ト掛離レタ者デドウ
シテモ我々人間ガ其境界ニ到ルヲ出來ナイト云フ様ナ者ナラ何程有難イ教
法デモ我々人間ニハ用ガナイト云フノガ佛教ノ見込デゴザイマスカラ佛教ハ
此身此儘天地萬物ノ主トナルノデ言ハ、我々が直ニ自カラゴッドニナルノデ
ゴザイマス其ノ我々が直ニゴッドニ成ル方法ガニツアツテ其ノ一ツガ今申シ
タ聖道門デ即チ戒定慧ノ三學ヲ修行シ悟ノ奥座敷へ這入テ見ルト天地間ニ有
リト有ラユル萬物が皆我カ方寸ニ皈シテ我身ノ外ニ天地モナク萬物モナイ天
地萬物ソノ儘我ガ身デアルカラ誰レニ對シテモ我ト名クル物がアリマセウヅ

此時山川草木日月星辰皆ナ悉ク我が手足ノ如ク自由ニ成ルサテ此等ノコトハ學問ノ上デハドウモ理屈ハ言ヘルガ實ニ彼ノ耶穌教者ガ云フ通り此ノ世ノ中ハ不完全ナ人ノ多イ世ノ中ダカラ其不完全ナ連中ガ一大隊モ二大隊モ集ツテ來ル説教所デ各々方ガゴッドダ各々方ガ佛ダ外ニゴッドカアルノデバナイト申シテ聞セテモ頓ト理屈ガ分ラン仍テ一方ニ淨土門ガ開テアル云ハ佛堂ニ入ル表門裏門ノ様ナモノデアアル此ノ淨土門ノ方ハ初カラ本爲凡夫ト申シテ愚人ノ爲ニ御開キニ成タノデゴザイマスカラ法然上人ナドハ常ニ愚痴ナ人ガ來ルトソレヲ御得意ノ御客様ノ様ニ扱ハレテ利發ラシイ人ガ來ルト却テ餘處々々シク成サレタト申シマス然ラバ其他方力淨土門ハドウ云フ工合デアアルカト云フニ向フヘ阿彌陀如來ト云フ靈體ヲ觀想シテ萬事萬物ヲ此一靈體ニ決版サセル是モ彌陀ノ力デアアル其レモ彌陀ノ仰セデアアルト云フ様ニ阿彌陀様ノ中ヘ何モカモ皆持込ンデ仕舞テ終ニハ自分ノ身モ心モ皆ナ彌陀ニ成リ天神地祇モゴツドモ魔鬼モ天地間ニ有リト有ラユル物事ガ皆彌陀ニ成テ仕舞ヘバ彌陀ノ外

佛

教

佛

教

ニ何モナイニ依テ己レダノト云フ物ノアロウ筈ガナイ此時十方方法界ガ一枚ニ成タ様ダカ一枚二枚ト云フノモニツ以上アル此ノ名デアアルカラ一ト云フ名モナクナル箇様ニ申シマスルトソレデハ阿彌陀如來ト云ヒ往生淨土ト云フノハ全ク一時ノ方便デアロウト云フ人ガゴザイマセウガ方便ト云フ日ニハ淨土門モ方便ナレバ聖道門モ方便ニ違イナイ裏門カ座敷デナイト同ジ様ニ表門モ座敷デナイ唯其方便ノ内ニ人々ノ機根デ我々ハ表門カラ佛堂ニ往カウト云フ人ハソウスルガヨイ又タ表門ヲ通ルニハソレソレノ支度ガ有テ色々六ツカシイニ依テ何モ入ラヌ裏門カラ心安ク這入リヌイト云フ人ハソノ通りニスルマデノコトデ同ジ京都ヘ往クニモ淨土門ノ方ハ船デ往ク様ナモノ聖道門ノ方ハ東海道ヲブラソト登ル様ナモノデ脚モ達者デ路銀モ十分アル人ハ江ノ島ヲ見物シタリナドシテ氣長ニ道中ヲスルノハ中々面白イコトデゴザイマセウガ諸私ハ脚腰モキカズ路用モ足ラズ到底ブラソ京都ヘ往クコトガ出來ヌト明ラメノ附タ人ハダマサレタト思フテお救ヒ船ニ乗込ノダシテコノ船ニ乗ルニハ

佛

自力根性が少シデモ有テハ往ケン實ハ東海道ヲ往ケンコトモナイガ船ガアル
 ナラ乗テ見テモ宜イナドト云フ様ナアヤフヤナ客ハ此船ニ乗ルコトハ出來ナ
 イ片足ヲ陸ヘ置テ片足バカリ船ヘ乗セテ大海ヘ出ルト云フ譯ニハ往ケマセン
 一旦船ニ乗タ上ハ何事モ船頭マカセニ致サンケレバナラヌソウスレバ「彌陀
 佛のちかひの船にのせられていきのとまりは西のかのさし」ト云フ様ニ往定
 スルコトが出來ル依テ自分ノ智慧モ分別モ用ニハ立チマセン設ヒ如何程上達
 シタ學問智識デモミナ振り棄テナケレバナランソレシヤニ依テ法然上人ハ一
 文不知ノ尼入道ニ同フシテト言ハレ親鸞上人ハ在家同事ノ姿ヲ示シテ肉食妻
 帶マデモ致シ戒法モ禪定モ振リステ、仕舞ハレタノデゴザイマスコー自力ヲ
 振棄ナケレバ他力ノ船ニハ乗ラレナイコレト反對テ自力聖道ノ方ハ私ハ身軀
 が弱イカラ京都マデ能ク東海道ガ往ケレハ宜イガナドト云フ様ナケナナ了簡
 デハ悟リハ開ケナイ途中デ死ダラ生レカハリ死カハリ娑婆往來八千邊ト度胸
 ヲキメテ旅立ヲスルガヨイ露ホドモ他力根性ナドガ有テハナラン釋迦何人ゾ

教

佛

我何人ゾ佛ヲ呵シ祖ヲ罵ツテドシノト遣ラナケレバ其甲斐ガナイソレダカ
 ラ自力聖道ノ修行ハワザト慈悲ヲ隠シテ智劍ノ鋭イ致シ方又他力淨土ノ方ハ
 ワザト有ル智慧ヲモ隠シテ慈悲バカリテ行キマスカラ何モカモ反對シテ居リ
 マスケレドモ其實ハ少シモ變ラズ表門カラ這入タ人モ裏門カラ這入タ人モ座
 敷デ逢フタ時ハ智愚モ利鈍モ差別ガ無イ智愚ダノ利鈍ダノト申スノハ皆門ノ
 外デノ話デ設ヒ世間ノ事ニハドシナニ利口發明ナ人デモ出世間ノ用ニハ立ナ
 イ以上ノ次第デ佛法ハ面白ヘ方モ有ガタイ方モ其ノ妙處ニ達スレバ同ジ味ヒ
 ニ成ル然ルニ此道理ヲ知ラナイ人ハ片々ノ方ノ話シバカリ聞テドゥモ佛法ハ
 婆々ダマシダ中人以上ニハ向カナイ教法ダナド、生意氣ニ濟シテ居タリ又タ
 禪機ノ活潑ナ所ヤ法相宗ナドノ綿密ナ様子ヲ見テ佛法ヲ唯タ面白イトカ高尙
 ダトカバカリ思フテ風流ヤ理屈ニ陥ツテ仕舞フテモ何ノ甲斐モナイ結局佛教
 ハ高尙ナ哲學ニハ違ヒナイガ之ヲ智者ニモ愚者ニモ蒙ラセル爲メニ其哲理ヲ
 宗教ニ應用シタ所ガアルニ依テ自カト他カトノ二門ガ分レタノデゴザイマス

教

佛

教

カラ人々各々が自分自分ノ機根次第ニドチラノ門カラデモ勝手ニ御道入ナサルガ宜イ然シ門ノ前ニウロ々々々々居ルト悪魔ノ犬ニ吠ラレルシ門ノ内へ道入テモ座敷ノ奥へ往カナイデハ主人公ニ逢ツテ最尊無上ノ法味樂ヲ御馳走ニナルコトハ出来マセン此へ往キサイスレバ「分け登る麓の路わ多けれを同じ高嶺の月をこそ見れ」ト云フコトニ成ルノデゴザイマス先ツザツト申セバコンナ者デ經文戒律ニ就テ話セバキリノナイコトデゴザイマスガツマルトコロ佛教ハ文ニ依リテ義ヲ解スルハ三世佛ノ仇ダトカ經論ハ月チ標スノ指デシカナイトカ又門ヲ敲クノ瓦デサイナイトカ甚ダシキハ教外別傳不立文字トサイ言へバ只ダサトリト云フ所ニ至レバ何モ入ラナイ其マ、智愚ヲ問ハズ佛コナルノデゴザイマス

ソノ人遂ニ禮謝シテ去レリ

讀者ソレ佛教ヲ理會セシヤ法相ノ五重唯識觀モ三論ノハ不中道觀モ華嚴ノ三聖圓融觀モ天台ノ一心三觀モ入口ヲ異ニスト凡皆ナ諸法實相ノ真如ノ理ヲ知ラシムルノ外

佛

教

他ナシ今佛ノ所說ニ就テ之ヲ盾セバ十二因緣ハ以テ次第生起ノ理ヲ明シ三世ハ以テ生死流轉ノ理ヲ示シ四大ハ以テ天地萬物ノ原素ヲ總攝シ四生ハ以テ一切群靈ノ數ヲ舉グ心識ヲ煥發スルニ至テハ五蘊皆空ト說キ八識流轉ト談ズソノ精微ニ至テハ豈筆舌ノ能ク及ブ所ナランヤ而シテ父母報恩經ニハ孝ヲ說キ涅槃ニハ愛ヲ說ク孝愛慈悲佛亦最モ主唱セリ然リ而シテ教ニ大小乘ノ區別アリ頓漸顯密ノ差排アリ五時八教ハ皆ナソノ真理ヲ發揚シ高尚ノ道理ヲ證セシムルノ法典ナリ說法四十九年ニ渡リ戒ニ五戒アリ十善戒アリ二百五十戒アリ大小乘汗牛充棟大數一萬餘卷ト云フ一々コレガ書冊ヲ繕キ審査檢閲セント欲スルモ豈ニソレ得ケンヤ然リト雖トモ之ヲ要スルニ左ノ三信三行ニ外ナラズ今全國ニ弘布セル各宗ノ僧侶各々我執ヲ離レズ皆ナ自宗ヲ以テ當ヲ得タルモノトナシ偏執ノ心ヲ生ジ法華經中ニ所謂今此ノ三界ハ即是我有其中ノ衆生ハ悉是吾子ナル語ヲ知ラザルモノ、如シ蓋シ彼等ハ儀式ノ差ハ止ムチ得ザルコトナガラ名稱ノ上ニ拘泥シ彼ノ宗ニハ空假中ト云フモ六大四曼三密ト云フ方宜シキナリト互ニ真如ト云フモ佛陀ト云フモ皆ナ假名ニシテ其ノ本体平等ナルヲ解セ

ザルモノ、如シ眞ニ憐ムベキナリ余此頃口藹々居士大内先生ヲ訪ヒ左ノ三信三行ヲ授カルヲ得タリ世人同感ノ人多カラン依テ先生ニ乞ヒ本書ニ之ヲ掲載シ以テ佛教ヲ知ルノ補助トセリ其ノ詳細ノ解説ニ至テハ他日先生ノ著アルベケレバ一讀ヲ賜ヘ今諸宗謂フ所ノ各自ヲ借ラズ別ニ之ヲ附セラレシモノナレモ異名同体ニシテ毫毛モ差アルヲナケレバ讀者ソレ之ヲ了セヨ焉

信行綱領

三信

吾人は無限の空間に充塞し無限の時間を通貫して宇宙平等の本体たる絶対不變の靈光あることを確信す

吾人は宇宙平等の本体活動して萬象差別の現相と成り因縁相續して世界の果報歴然たることを確信す

吾人は萬象の妙用各其本徳を全して互に相感應するときは即ち差別の現相直に是れ平等の本体たることを確信す

信 行 綱 領

ソレ三信ハ是レ本体平等、現相差別、妙用感應觀念便チ吾人智識ノ妙諸經ニ謂ユル佛身法界ニ充滿シテ普チク一切群生ノ前ニ現ズ縁ニ隨ヒ感ニ赴キテ周チカラザルヲナク而モ常ニ此菩提座ニ處スト是レナリ

三行

吾人は凡そ止惡轉迷の規律皆誓て之を實行す

吾人は凡そ修善開悟の道法皆誓て之を實行す

吾人は凡そ濟衆救世の事業皆誓て之を實行す

三行ハ止惡修善濟衆ノ運動便チ吾人徳行極致經ニ謂ユル諸惡ハ作ス莫レ諸善ハ奉行セヨ自ラ其意ヲ淨クス是レ諸佛ノ教ハ是レナリ

表ヲ以テ諸宗ノ名目ト對照セバ

妙用	現相	本体
不二	諸法	眞如
融即	緣起	法性
感應	衆生	佛陀
始覺	不覺	本覺
解脫	生死	涅槃
周偏	事理	眞空
中	假	空
三空	四曼	六大
回互	偏	正

信 行 綱 領

三 信

三行

止惡	攝律儀戒	斷德	法身
修善	攝善法戒	智德	報身
濟衆	攝生戒	恩德	應身

信行綱領

佛教ハ要ヲ以テ之ヲ言ハ、右ノ三信三行ニ外ナラズ然リト雖、凡絶対不變ノ靈光ヲ或ハヤツ教ノ神ノ如ク思意スル者アルキハ實ニ迷惑千萬ナリ乞フ聊カ之ヲ辨ゼン抑モ佛教ニ所謂絕對者ハ其本体平等ニシテ無限ナリ其ノ地位ニ至ル素ヨリ因果ノ道理ヲ離レズ山川草木人類虫魚一切衆生皆ナ其本徳ヲ全フセバ即チ神ナリ人即神神即人ニシテ彼ノ耶蘇教ノ絕對者ノ如ク吾々人類ト隔絶シタルモノニアラズ蓋シ佛耶兩教同ジク絕對者ヲ認ムト雖、Personal God (有心) Im Personal God (無心) Personal God (有心) Im Personal God (無心)ニ見做スノ差アリ且ツ佛教ハ歸納的ニ事物ノ本源ヲ探究スル者ニシテ之ヲ耶蘇教ニ比セバ絕對者ヲ説明スルニ於テ、Personal God (有心) Im Personal God (無心)ノ廣濶精微ナル同日ノ論ニアラザルナリ基督教ノ所謂獨一眞神ハ宇宙萬物ヲ創造セシモノナリト

信行綱領

云フ然ル以上ハ己ニ造者被造者ノ二者アリ豈ニ之ヲ絕對ト云フヲ得ン神人如何ニ親密ナルヲ得ルモコレガ本源ヨリ己ニ區別アリトセバ彼ハ此ニ對シ此ハ彼ニ對ス對々ト云フベキナリ故ニ佛教者ヨリ基督教ノ絕對者ヲ見ル時ハ對々ニシテ絕對不變ノ靈光トシ云ハザルナリ本体平等ニシテ現相ノ差別アリ妙用相感應シテ各ソノ本徳ヲ完フスルニ至レバ豈ニ彼此ノ差別アランヤ差別ノ儘コレ無差別無差別ノ体之レ差別平等一如他ニ對スルモノナシ己ニ對者ナクンハ是レ眞ノ絕對ト云フベキナリ讀者自身ニ深ク考鑑セバ自ラ了知スル所アラン猶ホ次章ニ教優劣論ヲ熟讀シ一層明知セラレシコトヲ伏シテ懇願スル所ナリ

附加

聖道門ニ入ラントスル人ハ三學ヨリ修行ヲ積ムベケレト淨土門ニ入ル人ノ爲メ淨土門隨一眞宗ノ改悔文ヲ掲ゲ以テ該門ニ入ルノ一助トス

改悔文

信 行 綱 領

安心

もろくの難行難修自力のこゝろをふりすて、一心に阿彌陀如來
我等が今度の一大事の後生御たすけ候へとたのみまうして候 た安心
のむ一念のとき往生一定御たすけ治定と存じ

報謝

このうへの稱名は御恩報謝よろこび申候

師徳

この御ことばり聽聞まうしわけ候事御開山聖人御出世の御恩次第
相承の善智識のあさからざる御勸化の御恩とありがたく存じ候

行狀

俗諦 法度

このうへはさだめおかせらるゝ御掟一期をかぎりまもり申べく候

安心 ひらくとき木實をむすぶ梅の花

報謝 五月雨のまげさが中に咲く葛蒲

師徳 何ばかりお手のかゝりし菊の花

法度 をれるまで堪えてこぼせ竹の雪

佛 耶 兩 教 之 優 劣

世間往々佛教ヲ毀ル多クハ一部ノ經文ヲ摘發シテ高遠ノ眞理ヲ究メズ徒ラニ死者ノ
葬儀ニ止マルモノトナス耶蘇教徒ノ誹佛亦タ然リ然レドモ佛徒ノ之ヲ慨歎シ耶蘇教
ヲ破スルモノ亦タ聖經ノ一部ヲ窺ヒ(馬太傳十章卅四章以下ノ如キ)之ヲ摘發シテ破邪ノ當ヲ得タルト
思ヒ得々然トシテ一言ノ下舌根ヲ絶タントシ却テ敗ヲ取ラントスルノ傾向アリ嗚呼
兩者共ニ憐然タラズンバアラズ基徒ノ熱心傳道者ソノ人ノ多キハ實ニ佛者ノ遠ク及
バザル所眞理遠大高濶ニシテ所説能ク宇宙万般ノ原理原則ヲ究明スルハ基教ノ遠ク
佛教ニ及バザル所將來何ノ日カ佛耶名字ヲ一洗シ基徒ノ熱心佛教ノ眞理ヲ傳播スル
ノ時ナキヲ保センヤ余ハ素ヨリ名字ノ上ニ爭ハズ經文ノ長短ヲ比較セズ唯マ宗教ノ
大本ヨリ佛耶兩教ノ優劣ヲ判セントス蓋シ讀者諸君早ク已ニ佛耶兩教ノ二章ヲ閱覽
シアレバ諸君ノ胸中自ラコレガ優劣ヲ判セラレシナラン噫余ハコノ小冊子ニ於テ區

佛 耶 兩 教 之 優 劣

劣優之教兩耶佛

々タル枝末ノ長短ヲ陳列論辨スルヲ得ジ又々之ヲ要セザルナリ大樹之ヲ倒サント欲セバ宜シク根本ヲ切斷スベキナリ誰レカ枝葉ヨリ始ムルモノアランヤ此章ヲ讀ムモノ乞フ其意ノ在ル所ヲ察シ二教基礎所立ノ深淺強弱ヲ明知シ迷フ所ナクンハ幸甚矣ソレ宗教ノ宗教タル所以ハ神ノ神タル所以ノ理ヲ悟リ迷倒ノ見ヲ脱スルヲ以テ極所トナスナリ嗚呼世界ノ廣キ教論ノ多キ何人カ善ク其ノ真理ヲ説破シテ安心自立ノ教道ヲ設置シ真理ノ宗教ヲ建立セシヤ支那ノ老莊ハ淡泊虛玄ヲ説テソノ説ヲ擴張シ孔孟ハ忠信仁義ヲ説キ善ク人ヲ教ユレドモ皆ナ以テ未ダ教主トナスニ足ラズ猶太ノ耶穌ハ自カラ神子ト號シ自ラ救世主ト唱ヘ末世ノ民ニ代テソノ罪ヲ償フト稱シ上帝ノ民ヲ愛スルハ上帝ノ我ヲ愛スルガ如シト謂ヒ天地父母國土一切ノ事物ミナ上帝ノ造作スル所ト謂ヒ其ノ敬愛ノ道ヲ説クコト厚シト雖モ人間ノ生存スル所以ノ理ニ於テ事物ト真理トヲ究極シ安心ノ教ヲ存スルコトナシま本狀ノ理教ヲ談ズルノ語アリト雖モ學者ヲシテ切瑳セシムルノ要義トスル能ハズ故ニ未ダ基督ヲ以テ世教ノ本主トナスニ足ルモ未ダ出世教ノ本主トシテ教主ノ目ヲ附スベカラズ若シソレ敬愛仁義

劣優之教兩耶佛

ヲ以テ世ノ救主トセンカ現今印度婆羅門新教ノ説ノ如ク衣食醫藥牛洩馬渤亦タコレ救主ナラン蓋シ世ノ救主トハ人間心病ノ在所ヲ知り三才ノ道ヲ竭シ實義ノ教ヲ存シ普ク世人ヲシテ信ヲ置クニ足ラシムルノ理由アルヲ以テノ故ナリ試ミニ耶穌ガ所立ニ就テソノ一二ヲ論ゼン靈魂不死ヲ言フガ如キ殆ンド精妙ニ似タリト雖モ真理ノ本分ヨリ之ヲ論ズレバ未ダ痒ヲ搔クノ言語ト云フベカラズ何トナラハ靈魂ヲ以テ一魂物ノ如シトシテ不死ト謂ハハ如何ナル地ヲ以テ所住トスルヤ如何ナル形相ヲナシテ生死往來スルヤソレ死ハ生ニ對スルノ辭ニシテ死ナクンハ生モ亦タナケン生モシナクンハ焉ンゾソレ死アランヤ何爲ゾ靈魂ハ如々ナリト謂ハザル何爲ゾ靈魂ハソノ生ナクンノ滅ナクンノ増ナクンノ減ナシト説カザルヤ而シテ靈魂身體共ニ天帝ノ援興ナリトシテ言路ヲ絶スルニ至ツテハ豈ニソノ言ノ撞着スルノミナランヤ學者ヲシテ終ニ迷悟兩般ヲ決セシムルニ由ナキナリ三位一体ノ説ノ如キ耶穌ニシテ始テ得ヘシ後世ノ人ヲシテコノ地位ニ至ラシムルニ於テハ或ハソノ補助ノ言語ヲ假ラザルヲ得ズ何トナレハ上帝ヲ以テ物トナシ靈魂ヲ以テ物トナサバソノ

劣優之教兩耶佛

道ヤ支節分離ノ道ニシテ終ニ打成一片ノ時アルベカラズ豈ニ同体一体ノ真理ニ契當スベケンヤ彼等ノ言ノ如ク三位ハ一体靈魂ハ不死トノミ言説セハ唯實理ノ邊際ニ轉迷セシムルノ語トナルノミナラズ靈魂身体ノ畛界ヲ存立セザルヲ得ザルナリ然ラハ則チ基督教ノ金科玉條トスルハ真理ノ語言ニアラズシテ只ダ一ノ一愛字アルノミ只ダ一ノ一信字アルノミ將來傳道ニ從事スルモノ真理ノ本源ヲ究極シ教主未發ノ經義ヲ發見シ其ノ所説ヲ擴充セハ其ノ功豈ニ禹ノ下ニアランヤ抑モ今日歐米諸邦典章文物ミナ宗教ニ淵源スト爲セリ願フニソレ宗教ヤハ人心ヲ快樂ニシ胸懷ヲ開豁ナラシメ形而上ノ實理ヲ支配スルノ徳アルガ故ニ教ノ善否ニ論ナク言ノ高卑ニ係ハラズ心ヲシテ萬機ニ通ズルノ自在力ヲ得セシムルガ故ナラン然レハ則宗教ノ善美ナルモノハ益々家國ヲシテ福利ヲ得セシメ人民ヲシテ安樂ヲ享ケシムルコト豈ニソノ辨ヲ俟ンヤ

往古來今經賢傳ノ上ニ就キ東西ノ邦土ニ於テ教主タルベキモノヲ見ルニ孔ニアラズ老ニアラズ亦タ耶ニアラズ只マ獨リ印度ノ釋迦ソノ人ナリト云フベキナリ如何ント

劣優之教兩耶佛

ナレバ能ク人間ノ苦惱ヲ悟リソノ所説誠ニ全世界ノ教主ト仰ギ美ヲ千萬古ノ下ニ縱ニスルヲ以テナリ

噫耶穌能ク靈魂不死ノ説ヲナスモ未ダ生死ヲ解脱スル克ハズ已ニ生死ヲ解脱スル能ハズンバ吾人ノ迷想何ノ日カ消滅セン安心立命ノ地位ニ至ルソレ何ノ時ゾ……翻テ佛教ヲ回一觀セヨ修證義(コレハ曹洞宗ノ所立ナルモ亦々佛教ノ大体ヲ知ルヲ得)第一章ニ曰ク生を明らめ死を明らむるは佛家一大事の因縁あり生死の中に佛あれば生死なし但生死即ち涅槃(涅槃ハ即チ生脱ナリ)と心得て生死として厭ふべきもなく涅槃として欣ぶべきも亦是時初めて生死を離るゝ分あり人身得ること難し佛法値ふこと希れなり今我等宿善の助くるに依りて既に受け難き人身を受けたるのみに非ず遇ひ難き佛法に値ひ奉れり生死の中の善生最勝の生あるべし最勝の善身を徒らにして無常の風に任ずること勿れ無常(諸行無常)

ト申スコトハ佛教ノ他教ト異ナル一ツノ特性デコレニ諸法無我ト申スコトト涅槃寂靜ト申スコトト如ヘテ三法印ト申シ其三法印外レタ脱ハ如何ナル名論テモ佛法トハ言ハマト云フノガ佛法ト外道トノ差別ヲ附ケル一ツノ規則デアリマス世ノ中ニ有リト有ラユル物柄事柄何一ツトシテ永存スルモノハナイ皆悉ク速イカ早イカ壞レテ仕舞フニ遠イナイナゼト申スニ世ノ中ニ有リト有ラユル物事ハ一トシテ實體ノ有ル者ハ無イ暫ラク因縁果報ノ結び附ケバカリテ假ノ姿ヲ顯ハシテ居ルマデノモノシヤ人身ハ四大五蘊因縁和合シテ假リニ成セリ八苦ツチニ有リ況ンヤ刹那刹那ニ生滅シテ更ニ留マラズト正法眼藏ノ出家功徳ノ卷ニ載セテアル凡夫ノ考デハ母ノ胎内ヲ出タリバカリ

劣優之教兩耶佛

ナ生レタト覺エ棺ノ中へ入ルバカリ死ダノデアルト思フノダカソナ荒ヤシイ）悲み難し知らず露命い
 語デナイ利那刹那ニ生滅シテ無常迅速テ有ルト云フ如何ニモ細カイお話ジヤ）
 かなる道の草に落ちん身既に私に非ず命は光陰に移されて暫くも停め難し紅顔いづ
 くへか去りにし尋ねんとするに蹤跡なし熟々觀する所に往時の再び逢ふべからざる
 多し無常忽ちに到るときは國王大臣親暱從僕妻子珍寶たすくる無し唯獨り黃泉に趣
 くのみあり己れに隨ひ行くは只是れ善惡業等のみなり（善惡業等ノミソト有ル御詞コレ大切
 ナ處テ斷常ノ二見ニ落ルカ格キマカト云フ關所モ此處ジヤ近頃ハドウ云フモノカ酒々タル佛教者ガ大方ハ靈魂不
 滅ト云フ様ナコト云テソレナ佛敎ノ土望ノ様ニ思ツテ居ル人ガ多イ其人達ノ言フナ聞バ此身コソ燒ケバ灰ノ埋メ
 バ土ニ成ルケレドモ此ノ靈魂ハ不生、不滅燒クコトモ出來テバ埋ムルコトモ出來ヌナドト申シマスガ其靈魂ト云フノ
 ガ何ノ事ガ存ジマセンガ佛ノ敎ノ中デハ名モ聞クコトナイノテ最モ耶ノ敎ヤ爲風流ノ神道ナドデハンソナ事ヲ申
 ス様子デゴザイマスガ佛敎者タルモノ、耳ニモ觸レベキコトハ御）今ノ世に因果を知らず業報を明め
 坐イマセン此事ハ承陽大師ガ正法眼藏ノ便道話ノ中ヲ御覽ナサイ）
 ず三世を知らず善惡を辨まへざる邪見の黨侶には群すべからず大凡因果の道理を歴
 然として私なし造惡の者は墮ち修善の者は墜る毫厘も惑はざるなり（三世因果ト申スコハ
 起滅陰顯一切ノ事實ヲ證明スル至テ大切ナ法則デアリマス然ルニ其道理ヲ知）若し因果亡ビ虚しからん
 ラヌ者ハ邪見ノ徒ト言ハレテモ無學無識ト言ハレテモ申シ分モナイ筈ジヤ）
 が如きハ諸佛の出世あるべからず祖師の西來あるべからず善惡の報に三時あり一者
 順現報受（現在ノ原因ガ現在ニ）二者順次生受（現在ノ原因ガ現在ニハ結果ガ見エズ未
 來ニ成テ其ノ結果ガ顯ハレルヲ云フ）三者順后次受

劣優之教兩耶佛

（原在ノ原因ガ未來世ニモ顯ハレズ三世四世モ）これを三時といふ佛祖の道を修習するには其最
 初より斯三時の業報の理を習ひ驗むるなり爾わらざれば多く錯りて邪見に墮るあり
 但邪見に墮るのみに非ず惡道に墮ちて長時の苦を受く當に知るべし今生の我身二つ
 なし三つなし徒らに邪見に墮ちて虚く惡業を感得せん惜からざらめや惡を造りしが
 ら惡に非ずと思ひ惡の報あるべからずと邪思惟するに依りて惡の報を感得せざるに
 は非ずト）
 又々大智度論ニ曰ク一切世間ノ法ハ唯因果無レ人除ニ假説故有レ此是正思量ト讀者ソ
 レ以テ如何トナス
 佛教ノ修證ハ苦樂ニ始マリテ生死（苦樂ニ始マルト申スノハ生レテカラ死ムルマデニ起ル種々様々ノ
 事柄ヲ總メテ見レバ苦樂トノ二ツニ總マルソコデ佛菩薩ノ方カラ
 中セバ苦樂俱樂ト云フノテ一切衆生ノ苦ヲ被テ樂ヲ與ヘテ遣ハシタイト云フノガ發願ノ手始メ衆生ノ方カラ中セ
 バ離苦俱樂ト云フノテ苦ヲ離レテ樂ヲ得タイト云フノガ修行ノ最初ジヤ然ルニ其苦ト云ヒ樂ト云フモノハ畢竟何
 處カラ起ルカト云ヘバ其始ガ生デ其終ガ死テ有ルカナ生死ニ明ラメノ附カメ内ハ幾ラ苦ヲ離レタイト）ニ終ル
 思ヒテモ眞實ノ樂ヲ得ル際ニハ往カソコデ生死ヲ明ラムルコト云フコトガ佛敎ノ終局自的デアリマス）
 生死亦タ分段生死（又々六道輪回ト云ヒ界内ノ生死（界内ニ生）變易ノ生死（下モ聲聞ヨリ緣覺テ經チ
 一口ニ申セバ身ノ生死又ハ凡夫ノ生死ナリ）上ミ等覺ノ菩薩ニ至ルマ
 デ皆ナ法性身ヲ受ケテ三界ヲ離レ常任ノ壽命ヲ得テ復タ分段形段ノ生死ナシト雖モ因移リ果易リ迷想漸々ニ消散
 スレバ悟德漸々ニ増進シ身心イヨク勝妙ニシテ前位ヨリ后位ニ遷移ス之ヲ變易ノ生死ト云フ一口ニ申セバ心ノ

劣優之教兩耶佛

生死又ハ聖者ノ生死ノ差別アリ其精密周到ナル豈ニ口筆ノ能ク盡ス所ナランヤ地獄天堂ノ說因果實想ノ論皆以テ人ヲシテ勸善懲惡安心立命ナラシムルニ餘リアリ豈ニ釋迦ヲ目シテ教主トナサザルベケンヤ且ツソレ佛ハ一世ノ教主ノミナラズ天人ノ師トスルモ敢テソノ不可ヲ見ザルナリ往昔佛教ノ東漸シテ支那ニ傳ハルニ及ンデハ強弩ノ發未ダ弛ヘズ有力者輩出シ各ソノ經義ヲ主トシテ宗旨ヲ分列ス日本ニ再漸スルニ及ンデハ聖ヲ去ルコト愈々遠ク宗義宗派ノ多端ハ以テ亡羊ノ憾トナレリコレ殆ンド強弩ノ未魯編ヲ穿ツコト能ハザルト一般ナリソレ現今ノ佛教ヲシテ其財政ノ原ヲ遠クシ眞俗ニ歸ニ於テ超脫自在ヲ得セシメ諸宗僧侶ノ執着ヲ離レシメバ大乘ノ眞理ヲ弘道スル何ツ其難キヲ見ンヤモシ謂トコロ信愛兩字ノ糟粕ヲ認メテ救世ノ宗教スニ盡ルトセバ伏羲ノ八卦周孔ノ易傳ハ實ニ救世ノ良書ニシテ今世ノ宗教ニ超駕スルコト萬々ナラン而シテ猶未ダ宗教ノ一部ニ與カラズ愛ヲ説キ神ヲ敬スルノミナランヤ幽遠精微實理自然ノ妙味ヲ存シ感應道交ノ奇特アル決シテ架空ノ說ト謂フベカラズ見ヨ釋迦文ハたゞ此眞理ヲ辨明シテ人ヲ教導スルノミナラズソノ教中ノ文字ニ於テ

劣優之教兩耶佛

ヒロソヒ一(理學)ノ如キアリ首楞嚴是レナリロヂツク(論理法)ノ如キアリ因明俱舍唯識是ナリ政事經濟ヲ論ズルモノアリ仁王經ノ如キ是ナリ律法ノ原ヲ論ズルモノアリ梵網經ノ如ノキ是ナリ哲學ノ最上級ヲ論ズルニ似タルハ金剛經ノ如キアリ或ハ詩句ノ高妙ナルモノハ香風吹ニ恭華ニ更雨ニ新好者(法華經化)ノ如キ人者樂ニ苦之始(阿含經)ノ類ノ如キ實ニ妙絶文字ニシテ杜子美モ三舍ヲ避クベシ數理ヲ論ズルモノニ至ツテハソノ語句極メテ多シ後々五百歳ノ預言ノ如キ亦ソノ一ナリソノ說法ノ善巧方便ナル善ク人ノ根機ニ相應シ精粗至ラザル所ナシ佛ヲ稱シテ世尊ト謂ヒ其ノ辨ヲ尊テ廣長舌ト謂フ實ニ誣言ニアラザルナリ勿論基督教新約ノ馬太傳一章ヨリ約翰默止錄二十第二章ニ至ル舊約創卅記ヨリ馬拉基ニ至ル四十八章中一々之ヲ點檢セバ詩句ノ絶妙ナル哲理ノ奇巧ナル等種々コレ有リト雖モ皆ナ世間ノ教ニシテ未ダ出世間ノ用ヲナサズ歸スル所只マ愛信ノ二途アルノミ教元ノ廢狹誰レカ之ヲ佛教ニ比セントスル其精微細素ヨリ同日ノ論ニアラザルナリ然ルニ今日佛耶ノ優劣ヲ論ズルモノ多クソノ規狀ヲ認メテ教義ノ善惡ヲ推量スルニ過ギザルナリ成敗ヲ以テ人ヲ論ジソノ法理ヲ議

劣優之教兩耶佛

スルハ世間ノ業モ猶ホ之ヲ快トセズ況ンヤ出世間業ヲヤ彼等ノ言ニ曰ク基督教流通ノ國ハ人民新銳ノ活氣ヲ帶ビ文學政治其ノ百般ノ事物皆ナ駿々トシテ底止スルヲ知ラズコレニ反シ佛教ノ國ハ多ク分欠ニシテ兵力弱ニ敢テ智識ノ開進ヲ見ズ隨テ宗教亦々淺近ニ居ルト是レ通シテ口實トナシ以テ議論シ立ツ若シソレ此ノ如キ皮想ノ言ヲ以テ宗教ヲ論斷セバ眞理國ニ依リ時ニ應ジテ非眞理トナリ確定タル眞理ト玉フベキモノ更ニナシト云ハザル可カラズ金ハ等シクコレ金ナリ貴人ノ掌中ニ在ルモ賤人ノ囊中ニアルモ金貨ハ金貨ニシテ銀貨ハ銀貨ナリ金貨其ノ質ヲ變ジテ銅貨トナルノ理アラシヤ

回顧セヨ視點テ定メヨ今日泰西ノ耶蘇教ハ良醫ノ草根木皮ヲ用非テ能ク病ヲ治スル如ク亞細亞ノ佛教ハ庸醫ノ良藥ヲ用エルモ其ノ病根ヲ認メズシテ却テ人ヲ誤ルニ似タリア、何ゾ其懸隔ノ甚ダシキヤ然リト雖モ若シ今日ノ哲理ヲシテ他日其ノ奧ニ登ラシメハ宇内ハ廣シ萬國ハ多シ大人君子ナクンバアラス必ズ哲理ノ妙處ニ達シ佛智ヲ發見シ今日ノ耶蘇教蔓延ハ他日或ハ佛種ヲ傳播スルノ良田地タルナキヲ保センヤ

劣優之教兩耶佛

ソレ佛ト謂ヒ耶ト謂ヒ同ジクコレ天地間ノ善術ナリソノ獨一神ト云ヒ眞如ト云フ其ノ説ク所異ナリト雖モ淵源ニ溯レバ同ジクコレ一道ナリ佛ノ慈悲耶蘇ノ愛共ニソノ揆チ同ジユセリ然レモ一ハ高遠ノ事物ヨリ延テ吾人ノ道德ヲ計リ悟徳ヲ進メ一ハ卑近ノ哲理ヨリ直チニ是ニ充テントス其ノ精巧粗畧ノ差素ヨリ同日ノ論ニアラザルナリト雖モシカモ亦タ遷動シテ止マザレバ皆ソノ堂ニ登ルベシ思フテ此ニ至レバ佛耶ノ徒豈ニソレ軒輊ヲナスニ足ランヤ余亦タ之ヲ孔子ニ聞ク齊一變スレバ魯ニ至リ魯一變スレバ道ニ至ルト今日ノ哲學ハコレヲ齊ニ譬フベク今日ノ耶蘇教ハコレヲ魯ニ比スベシ齊魯一變シテ道ニ至ルハソレ佛乎此ノ如ク佛耶兩教ヲ判談セバ余輩ノ眼中豈ニ佛耶名字ノタメ眩迷スルアラン時ニ日本ハ日本ノ國體ニ順シ米ハ米英ハ英ト各國其ノ本徳ヲ完フシ差別ノ現相感應同交シテ宇宙平等ノ本体アルヲ確信セバ憂患之ヲ求メント欲スルモ豈ニ得ベケンヤ

英國ノ有名ナルグラスゴー神學教授博士ドアマモンド氏曾テ本邦ニ來リ演說セシフアリ其一言中ニ曰ク日本人ハ日本ノ哲學ヲ以テ基督ヲ信セヨト彼レ實ニ博士ノ稱號

ヲ空フセザル者ト云フ可シ徳川齊昭曰ク西土ノ書ヲ讀ムモノハ宜シク其堯舜ヲ尊ブ所以ヲ以テ我が神聖ヲ尊ビ其上帝ニ事フル所以ヲ以テ我が天祖ニ事フ可シト噫卓見ナルカナ名論ナルカナ擾々タル天下ノ人斯ノ如ク書ヲ讀ム者幾人カアル斯クノ如ク讀書セバ土モ金ニ化シ毒モ藥ニ變ジ何ノ書カ我利トナラザラン何ノ書カ我害トナル者アランヤ基督教徒中聖書ヲ讀ムモノソレ以テ如何ントナス余ノ憂ヲナスハ單ニ基督教ノ信ズルノ故ニアラス妄信ノ餘リ國家ノ元氣ヲ失シ裡夢ノ内ニ徘徊シ基督ノ光ヲ眞ニ認ムルモノナキヲ以テノ故ナリ乞フ次章ニ於テ之ヲ論ゼン

結論

余ガ佛教ノ爲メニ喋々スルハ耶蘇教ニ抗センガ爲メニアラズ其ノ真理トシテ研究スベキヲ以テナリ獨リソノ真理ナルヲ以テノミ之ヲ云フニアラス佛教ハ日本固有ノ宗教ニシテ國家的宗教ナルヲ以テナリ例ヘ其初メ他邦ニ起リシモ我邦ニ傳來シテ此ニ已ニ千數百年ノ久キヲ經其間直接ニ間接ニ人心ヲ化生シ且ツ日本地ニアリテ本邦人ノ開立スル所(淨土、眞、日蓮、時、融通念佛諸宗ノ如キ)多クオ自ラ日本別流ノ宗風ヲ

結

論

ナシ國体皇室ト離ルベカラザルノ緣故アルヲ以テナリ

活眼ヲ開テ歴史ヲ見ヨ欽明ノ朝佛教ノ傳來セシ以來聖德太子ハ深ク歸信セラレ天智天武兩帝ノ如キ厚ク佛法ヲ信ジ給ヒ天武ノ時民家ニ寺宇ヲ構フルヲ許シ持統天皇ノ時百官ニ敕シテ佛法ヲ奉セシメ聖武天皇ハ佛法ヲ以テ政ヲ資クルノ具トナシ諸國ニ國分寺ヲ置キ且ツ之ヲ信ズルノ餘リ十六丈ノ大佛ヲ造リ身自カラ佛戒ヲ受ケ給ヒ三寶ノ奴ト申シ給フ佛法ノ盛ナル古今此ノ時ニ及ブナシ稱徳天皇ノ時妄リニ佛法ヲ信ジ賜ヒ弊害ヲ來タセシマアリシモコレ佛法ノ罪ニアラズシテ僧侶恃ムノ致ス所故ニ光仁桓武兩天皇ノ時大ニ僧侶ノ權ヲ收メ賜ヘキ平城嵯峨淳和ノ時ニ至リ高僧出ダテ佛法ヲ弘ム藤原氏政ヲ専ラニスルニ至リテ佛法ヲ信セシモ僧侶ニ權柄ヲ假サマリシ其ノ后一々此ニ記スルノ煩ヲ避ケンカ兎ニ角古來ノ本寺本山僧位僧官ハ皆ナ救命ニヨリテ設ケ給旨ニ由リテ立テラレ各州各郡ニ寺院ヲ創立シ住職ヲ任命シ以テ國家鎮護ノ一助トセラレタルガ如キ名實共ニ皇室國体ト離ルベカラザル所ニシテ今日ノ明治時代ノ來ル同ジクコレガ原因ヲ探究セハ此等事跡ノ遷變ヨリ來リシモノニシテ今

結

論

日文明ノ果古昔コレカ源ヲナセシヤ疑ナシ此ノ故ニ太古ナクンバ今日アラズ若シ此等ノ事實ヲシテ一朝之ヲ廢センカ皇室國体亦タ隨テ廢セザル可カラズ果シテ然ラバ日本ノ永續ヲ期スル固ヨリ難カル可シ

結

スマイルス曰ク歴ク古今ヲ察シ成敗ノ跡ヲ察スルニ邦國ノ優劣強弱ハ其ノ人民ノ品行ニ本ヅク者多クシテ國政ニ本ヅクモノ少ナシト文天祥ハ曰ク節義ハ國ノ元氣ナリト而シテ此ノ節義ヲ有スルモノ必ず善行之士ニアリ邦國ノ優劣強弱其ノ民行ニ本ヅク者固ヨリ矣

論

噫々我が邦東洋ノ一隅ニ孤立スル一小國ナリト雖モ皇統連綿靈々照々トシテ字内ニ對ヒ愛國尊皇ノ美ヲ輝カスソモ何ニ由ツテ然ルカ古來儒教ノ力克ク節義ノ臣ヲ養生シ佛教ソノ大綱ヲ網羅シテ刹那々々ニ人心ヲ匡正シ來リ尊皇ノ念愛國ノ心ヲ確フセシガ故ナラズヤ世人ハ泰西文物ノ華美ナルヲ見テ以テ眞ノ文明國ナリト羨ムカ太古印度ノ状態ヲ察セザルカ何ンゾ自カラ信セザルノ甚ダシキヤ宇内洲中何レノ國カ盛衰ノ時ナカラン而シテ皇統連綿一如タルソレ之ヲ何クニ向テ求メントスルスマイル

結

ス云ヒシヲアリ自身ヲ信用セザルモノハ敢捷ニ事ヲナシ難シト宜ナル哉言ヤ自身ヲ信用セザルモノ意氣撓屈シ志操剛毅ナル能ハズ事ノ成ラザル所以ナリ今我が邦人自國ヲ輕ンジ徒ラニ外物ノ華ナルニ驚キ一モ西洋ニモ西洋政治モ法律モ風俗モ宗教モ皆ナ以テコレニ摸ハントスルモノソモ自身ヲ信セザルノ甚ダシキモノニシテ只ダニ事ノ成ラザルノミナラズ自國ノ元氣ヲ失墜シ國家ノ維持皇室ノ永續ハ之ヲ計ル克ハザルナリ就中宗教ノ人心ヲ感動スル實ニ恐ルベキモノニシテ一旦コレカ迷信ヲ來タスモ如何ニ法律ニシテ周到ナラシムルモ如何ニ嚴刑ヲ設クルモ人心ノ匡正ハ到底之ヲ回ラス充ハズ憂コレヨリ大ナルハナシ苟モ政治家ヲ以テ稱セラレ又ハ自任スルモノ何ンゾ之ヲ思ハザル國体ノ美政治ノ華表面的ニ飾設シ外國輸入ノ假面ヲ被ムルモ國家眞粹ニ出デシ國光政輝ニアラズンバ徒ラニ弊害ヲ生ズルノミニシテ國粹何處ニカ散ジ切齒脆脆慷慨スルモ更ラニ其ノ功アルベカラス宜シク人民ヲノ心裡ニ自身ヲ信ゼシメ長ヲ執テ短ヲ補フノ才ヲ養生シ人間ノ本德ヲ完フスルノ德行ヲ了セシムベキナリ之レヲナス智ノ位ニ止マラズシテ行ノ位ニアリコノ行位ヲシテ完全ナラシ

論

結

ムルハ宗教ニ若クハナシ宗教中佛教己ニ最タリトセハ何ゾ之ヲ信ズルヲ猶預セン
 人民トハ一ノ國家を組織シタル多人數ノ集合ニシテ或ハ同一ノ人種ヨリ成立シ或ハ
 數種の民族ヨリ結合スルモノアリテ必ズシモ言語及ビ血脈ノ同一ヲ期ス可カラザレ
 トモ大抵國民ノ多數ハ同一ノ祖先ヨリ出テ同一ノ言語ヲ使用シ同一ノ思想慣習ヲ有
 スル者ニソ所謂一種特別ノ國性ヲ備ヘ他國人民ニ對シテ獨立ノ生存ヲ爲スナリ
 斯ノ如ク多人數ノ集合アリテ能ク整頓シタキハ必ズ一ノ國家ヲ組織シ他國ノ干涉ヲ
 受ケズシテ自ラ法律ヲ維持シ且ツ百般ノ政務ヲ處辨ス而シテ國內ニ於テソノ國家ノ
 生存ニ不利ナル者アルキハ一々之ヲ排除シ國外ヨリ妨害ヲ加ヘラレタルキハ全力ヲ
 盡シテ之ヲ防禦スルナリコレ實ニ人民ト唱スベク又々國家ノ國家タルベキ本分ニシ
 テ世界各國箇々ソノ成立習慣ヲ異ニスル所以ナリコノ故ニ自國ノ度ヲ計ラズ前後ヲ
 考ヘズ他國ノ制ニ模倣セバ知ラズノ思想轉々變化シ來リ國家ノ元氣ヲ滅シ國家ノ
 國家タル所以ノ理ニ背馳シ其ノ國タル有名無實精神ナキノ國土ニシテ他邦屬國ト云
 フモ敢テ其不可ヲ見ザルナリソレ然リ豈ニソレ然ランヤ蓋シ國ヲ思フモノ謹マズシ

論

テ可ナランヤ

結

不肖熟考スルニ佛教ノ真理ナルニモ係ラズ世人往々耶穌教ヲ信ズルハ抑モソノ故ナ
 クンバアラズコレ唯ダニ泰西ノ文華ナルニ驚キシノミナランヤ蓋シ其理一ニシテ足
 ラスト雖モ要スルニ佛教ノ何者タル長年月ノ間之知ルモノナキニ至リ僧侶亦タ關ニ
 居ルノ致ス所ナラン徳川氏ノ代耶教ノ廣マラントスルノ恐レアルヤ之ヲ拒カン爲メ
 大ニ佛教ヲ興シ天下ノ人ヲノ必ズ寺ヲ持タシメ寺ヲノ今日ノ區役所ノ如シ職務ヲ掌
 ラシメ以テ國家ヲ鎮護セシガ如何セン三百年治世ノ間ハ世上ノ學問推理ノ道恭微シ
 テ振ハズ政治ト宗教ハ常ニ鳥ノ兩翼車ノ兩輪ノ如ク互ヒニ相扶助シ其ノ狀殆ンド一
 家ノ夫家ノ如クナリシニ其ノ政治ハ專ラ民ヲノ由ラシムベク知ラシムベカラズノ原
 則ヲ奉ジ如何ナル道理アリト雖モ毫モ之ヲ説明スルヲナク會マ人民ガ之ヲ知ラント
 欲スレバ一言ノ下ニ之ヲ默レト喝破シ去ルノ主義ニテアリシ故コレニ伴フ所ノ宗教
 モ亦タ勢ヒ默シ主義ニ傾カザルヲ得ザルナリシ而シテ僧侶大ニ權力ヲ得テ資産ニ富ミ
 又タンノ通テ研究スルヲ忘レソノ行ヲ忘ル、ニ至リシカハ只ダ人民ハ習慣上佛教

論

ヲ奉ズルノミニ彼ノ耶蘇教徒ノ笑フカ如ク單ニ偶像ヲ拜スルノ徒トナリキ然ルニ維新ノ際尊王家ハ王政ト神道トヲ復シ幕府ト佛道トノ權力ヲ殺ガントセシガ故ニ王政復古スルヤ神道モ亦タ興リ從來神佛混淆ナリシモ明治ニ至リ神佛分離シテソノ道ヲ異ニシ且ツ朝廷ヲ始メ貴顯ノ人概チ神道ヲ奉ゼントスルノ傾向アリ機ニ際シ耶蘇教再ビ弘マラントスルノ狀況アリ蓋シ耶蘇教者ノ信切懇懇ニ傳道布教スルニ反シ佛敎ノ奧義ヲ知ラント欲シ來ルモノアレハ先テ之ヲ信ゼヨト云ヒ八萬餘旬ノ地下ニ地獄アリ十萬億土ノ西方ニ極樂アリト唱ヘテ而シテ若シ何人カ能ク之ヲ知リシヤト問ヘバ曰ク唯ダ釋迦牟尼如來之ヲ知ルノミ凡夫ハ決シテ之ヲ知ルコト克ハズ若シ之ヲ知ラント欲セハ先ヅ之ヲ信セザル可カラズト謂フカ如キ不信切ノ説キ方ヲナセシカバ勢ヒ然ラザルヲ得ザルナリ然レモ畢竟佛敎ノ上ニ解信ト信仰トノ二方アリテ一ハ詳カニ理解シテ而シテ后チ之ヲ信ズルヲ謂ヒ他ハ初メヨリ強テ信ジテ后チ之ヲ知ルニアリ

今ヤ明治ノ照代トナリ世上全般ノ智識ハ普チク上進シテ一事一物モ其存在スル理由

結

論

ヲ究メザレハ止マザラントスルノ世トナレリ余ハ諸君ニ向ヒ一圖ニ佛敎ヲ信ゼヨトハ言ハズ必ズ初メヨリ耶蘇教ヲ信ズ可カラズトモ言ハズ唯ダ充分疑問ヲ生起シ佛敎ハ果シテ如何ナルモノナルカ耶蘇教ハ果シテ其ノ性質如何ナルモノナルカヲ研究セラレシヲ望ムモノナリ

經文中ニ資生產業皆順佛法ノ語アリテ佛敎ノ功德ハ八科ノ學術ニ圓滿シ佛敎ノ利益ハ萬種ノ產業ニ普及スベキヲ示サレタリ人々箇々各其ノ本徳ヲ完フシ其ノ職分ヲ保守セハ皆チ菩薩業ノ研究ナリ悟徳其ノ極ニ至レバ皆チ佛ナリ神豈ニ遠キニアランヤ佛ソレ近キニアリ自カラ凡夫ナリト卑下スルモノハ三世諸佛ヲ毀ルニ等シト噫々何ンゾ自重セザル噫々何ンゾ信ズルノ輕キヤ西洋崇拜者ノ如クニシテ國家ノ維持皇室ノ永續ソレ固ヨリ期スベケンヤ

近頃口世上ノ狀態ヲ觀察スルニ佛教者稍々迷夢ヲ破リシカ如ク國粹保存主義ノ教興スルアルヲ見ル加アルニ圭運大ニ開ケ人智開進スルニ隨ヒ漸々是等ノ理論ヲ考ヘントスルモノノ如シ是レ實ニ我が邦ノ幸ニシテ印度アフガニスタンノ轍ヲ踏マザリシ

結

論

結

モノト云フ可シ己ニ此ニ注意セバ益々眞理ノ本源ヲ究極シ佛教ヲメ僧侶ニ一任スルノ理アラシキヤ佛教ハ僧侶ノ專有物ニアラズ印度ニ於テ世尊ノ發見ニ係ハルモ其ノ理タル宇宙ノ理ニシテ印度ノ理ニアラズコノ故ニ四十九年一字不説ト云ハレタリ噫々油斷ハ大敵好機ハ之ヲ自カラ圖ラザルベカラズソレ奮起セヨ焉

我が邦神武ノ統ヲ忝フセヨリ此ニ一血ノ聖主ヲ載キ未ダ曾テ外國ノ支配ヲ受ケズ國家ノ國家タル本分ヲ完フセリ今ヨリ以後苟クモ恭敬スルアラバ地下何ノ面目アリテ祖先ニ見エントスルカ宜シク奮然國基ヲ確フシ決然護法愛國ノ臣民トナリ死シテ芳名偉勳ヲ千載ノ下ニ垂ルベキナリ

論

活眼ヲ開ケ耳口ヲ擴ゲヨ支那印度ノ佛教ト日本ノ佛教ト異ナルヲ知ラザルカ宗教ハ國ニ應ジ人ニ適シテ組成スベキモノナルヲ知ラザル乎日本已ニ日本ノ宗教アリ豈ニ外國ノ新教ヲ輸入スルヲセン況ンヤ其ノ眞理ニ於テ數等ノ上位ヲ占ムルヲヤ語ヲ寄ス日本國民ヨ今日ノ日本ハコレ多端多忙ノ日本ナリ其力未ダ克ク諸外國ニ超飛スルヲ得ザルナリ井上圓了氏日本政教論第十五段ニ外教ノ恐ルベキ所以ト題ノ論シテ曰

結

ク余輩カ外國ノ宗教ヲ恐ル、ハ其宗ノ耶蘇教ナルニヨルニアラズ又單ニ外國ノ宗教ナルニ由ルニアラス其之ヲ恐ル、モ恐レサルモ左ノ諸事情ニアリ第一ニ我國ニ果シテ彼ヨリ強ク且ツ我文明ノ進歩果シテ彼ノ上ニアルキハ如何ナル宗教外國ヨリ入り來ルモ敢テ憂フルニ足ラズ第二ニ其外國ト稱スルモノ永久我カ同盟親睦ノ國ニシテ如何ナル事變アルモ彼レハ我ヲ敵視スルナキハ何レノ國ヨリ其宗教ヲ入ル、モ敢テ恐ル、ニ足ラズ第三ニ外國ト我邦ト其政体國風ヲ同一ニスルキハ復タ敢テ彼ノ宗教ノ我邦ニ入ルヲ恐レンヤ第四ニ耶蘇教ハ其性質我舊來ノ宗教ト同一ニシテ且ツ舊來ノ宗教ト調和スルヲ得ルモノナレハ是レ又タ憂フニ足ラス第五ニ我邦人悉ク智識アリ學問アリ萬國ノ事情ニ通シ愛國ノ精神ニ富ムキハ又何ソノ外教ノ漸入ヲ恐レンヤ第六ニ若シ我邦人猥リニ彼ヲ尊宗シ彼ヲ摸擬セスシテ彼ト全く關係ナキ一種ノ新耶蘇教ヲ構造シ日本ノ國体民俗ニ通スル一種別立ノ耶蘇教ヲ組織スルノカアルキハ是レ又何ソノ憂フルヲ要センヤ第七ニ若シ我邦一タビ外國ノ宗教ヲ入レテ他日其害アルヲ知ルニ至テ我國力ヨク其教ヲ撲滅シヨク上ヲ禁止

論

結

スルヲ得ルキハ又何ノ敢テ憂慮センヤ第八ニ我邦ノ政治法律其他百般制度皆已ニ一定シテ其基礎動サルノ際ナレバ宗教一部分ニ變動アルモ一國全体ノ上ニ其影響ヲ及ボスヲナカル可キヲ以テ是レ又深く憂ルニ足ラザルナリ然ルニ我邦今日ノ事情全ク其反對ニ在ルモノナリ因テ余輩ハ深ク其將來ノ結果或ハ國家ノ大患ヲ生スルニ至ランヲ恐ル、ナリ別シテ第八條ノ一點ニ於テハ我輩決シテ之ヲ默止ニ付スヘカラズ現今我國ハ百事百物皆悉ク變化スルノ際ナラズヤ其變化ノ中ニ唯一派ノ宗教アリテ僅ニ前後ノ思想ヲ連續セルニアラズヤ我政府ハ二十餘年前ニ政治上ニ第一回ノ大變動ヲ與ヘ今年又第二回ノ變動ヲ與ヘタルニアラスヤ此變動ノ時機ニ際シ宗教上ニモ變動ヲ與フルルハ兩者相合シテ必ズ非常ノ大變動ヲ起スニ至ルヘシ果シテ此ノ如キニ至ラバ是我邦ノ大不利大不幸ナルヲ余カ言ヲ待タスシテ明也、

論

世人ハコ、ニ氣附カザルヤ何ンゾ國家ヲ思ハザルノ甚マシキ
世間一般此ノ重大ナル問題ヲ以テ獨リ僧侶ノ任ナリト思ヒ敢テソノ無學不識ヲ責ム

結

ルハ僧侶ノ憫然ト共ニ又タ憫然タラザルヲ得ズ況ンヤソノ僧侶ノ無學不徳ヲ見テ我が皇室國体ト密接ナル關係ヲ有スル國家的宗教擯斥セントスルヲヤ余不肖ト雖ヒ慨歎ノ餘沫豈ニ一言ナキヲ得ンヤ

論

余ハ唯マニ日本固有ノ宗教即チ佛教ヲシテ日本ノミノ國家的宗教トセント欲スルニアラザルナリ宇内州中皆ナ吾カ佛教ノ差別ノ現相直チニ平等ノ本体ニシテ自他平等ノ真理ヲ知ラシメント希望スルモノナリ故如何ントナレバ若シ眞ニ此ノ自他平等ノ理ヲ行ナハレシメバ各國別体ノ儘コレ平等ニシテ彼レ此レノ差別ナク無益ノ軍艦無用ノ兵士ヲ要セズ互ヒニ相睨シ眦ヲ裂クノ患ナク眞ノ文明ニ至ルヲ得金玉世界ヲ創立スル豈ニ難キヲ見ンヤ此ノ如クンハ基督教ノ所謂天國ソレ眼前ニ在リ何爲ソ將來ヲ待ツヲセン有識者ナキカ活眼者ナキカ噫々記憶セヨ忘ル、ナ佛教ハ真理ノ教ナルヲ日本固有ノ宗教ニシテ國家的宗教ナルヲ信仰セヨ佛教ヲ護法精神石穿タント欲ス艱難何ゾ讓ラン讓謙ヲ兼ヌト真理ノ臣愛國ノ民トナリ國家ノ逆賊眞理ノ罪人ト呼バ
ル、ナ噫

有所權版

日三十月九年四廿治明

刷印

日五十月九年四廿治明

版出

發行

著作者

新潟縣平民

今井藤五郎

芝區芝伊田子町廿二番地寄留

東京府平民

森江佐七

麻布區飯倉町五丁目四十四番地

印刷者

澁谷信次郎

京橋區龍山町七番地瀧關社

發行所 森江佐七

東京飯倉町五丁目赤羽根橋北際

68
83



68
83

013650-000-6

68-83

宗教優劣論

今井 藤五郎(微笑居士)著

M24

ABA-0119

